



INFOS

日仏整形外科学会広報誌

アンフォ

会長 七川 欽次
President : K. SHICHIKAWA
副会長 菅野卓郎
Vice-President : T. SUGANO
副会長 小野村敏信
Vice-President : T. ONOMURA
書記長
Secrétaire général :
小林 晶
A. KOBAYASHI
書記・会計
Secrétaire et Trésorier :
瀬本喜啓
Y. SEMOTO
大橋弘嗣
H. OHASHI
事務局:
〒569 大阪府高槻市大学町2-7
大阪医科大学整形外科学教室内
Tel. (0726)83-1221 代表
(内)2364
Fax. (0726)82-8003
Bureau :
Osaka medical college
Dep. of Orthopedic Surgery
Takatsuki, OSAKA 569 Japan

会長挨拶

第6回日仏整形外科学会を開催して

七川 欽次

第6回日仏整形外科学会(SOFJO)は5月10日に、大阪国際交流センター小ホールで開催された。昨年11月にはバリーで第3回AFJO(日仏整形外科合同会議主催の学会)があったばかりであり、本年春に、日本整形外科学会に接して第4回AFJOが東京である予定なので、学会が込み過ぎているのではないかという意見もあったが、例年通りにSOFJOをやる方がよいだろうということになり、やはりそれでよかったと思っている。

SOFJOの活動を支えてくれている会員のための総会と、日仏整形外科学会青年整形外科医交換研修医の帰朝報告は1年の区切りとして欠かせないように思える。今年は平成5年度の交換研修医の小浦宏先生(岡山大学)と平成6年度の西川真史先生(弘前大学)から、率直で貴重な体験談を興味深く聞かせてもらった。その詳細はINFO(アンフォ)第4号に掲載されているのでご覧きたい。

この会では例年数題の研究発表があり、啓発されるところも多いのであるが、今回は時間の関係で2題にとどまり、一寸淋しい気がした。しかし安永裕司先生の

rotational acetabular osteotomy : a rabbit modelと石沢命仁先生の足の骨・軟部腫瘍に関するものは、いずれも力のこもった発表でよかった。

今年は特別講演の講師としてリヨン大学教授のRemi KOHLER先生をお招きした。コレール先生は若くして(47歳?)教授に就任されたばかりの方で、“小児悪性骨腫瘍における切断と患肢温存手術”という大へんアトラクティブな演題で話しをされ、かなりの良成績が発表された。画像診断、組織化学、遺伝子情報を駆使したこの分野における発展が期待されることを窺わせた。なお同教授はかねてから私に関心をもっているosteoid osteomaの経皮的剔出術の講演を滋賀医大でされたが、出席できなくて残念に思っている。

コレール教授にはその後学会でお会いしたので、日仏共同研究の話しをしておいた。私は昨年のバリーでのAFJOの学会での挨拶の折にもこのことについて述べたが、コレール教授は現在日仏整形外科学会の副会長であり、次の会長予定者でもあるので、こちらの意向を伝えたいと思ったからである。コレール教授が若いからなのか、日仏整形外科学会の存在が大きくなったからなのか、すぐに返事があり、会長のクルピエ教授から賛成である旨のファックスが届いた。このように素早い対応は若い世代の人達のせいかもしれず、嬉しい意外性であった。

学会後の懇親会が大阪国際交流センターホテルで催された。いつものようにリラックスした雰囲気で会員相互の交流の場となり、盡きない歓談に時がたつのを忘れるばかりであった。

日仏整形外科学会は、会員諸子のご協力、役員の方々のご盡力によって、一步一步確実に発展を遂げてきたように思える。来年は再び大勢のフランスの整形外科医を迎えて東京で第4回AFJOが開催される。我々の学会が真に有意義なものとなるように、会員の皆様方のご支援、ご協力を切にお願いする次第である。

なお今回も会場のお世話を日本リウマチ学会会長の小川亮恵教授に任せて戴いた。紙面を借りてここに厚く御礼を申し述べたい。



第4回日仏整形外科合同会議 (AFJO) 来年4月東京において開催予定

日仏整形外科学会
副会長 菅野 卓郎

平成4年11月はパリにおいて第3回AFJOが開催され、日本からは日仏整形外科学会(SOFJO)会員65名とその家族を含め90名近くが参加し大変心のこもった歓迎を受けた。学会はきわめて充実した高いレベルの内容で、それは日仏相互の整形外科理解の上で大きな進歩であった。日本から参加した方々はその家族も含めてあらゆる意味で大変満足して帰ってこられたと思っている。そのとき次回のAFJO開催は1996年東京において行われることに決まった。

さて東京での開催ということで、在京の私が場所の設定など具体的なことをお世話することになった。丁度私の同門の慶応矢部教授が4月11日より14日まで東京、新高輪プリンスホテルにおいて日整会総会を開催することになっているので、フランスの方々の日整会に同時に出席されるのにも好都合であるし、日本側の先生方にも便利ではないかということで次のように開催を予定した。

会期：平成8年4月13日(土)、14日(日)

場所：新高輪プリンスホテル

〒108 東京都港区高輪3-13-1

TEL (03) 3442-1111

前回のINFOSその他では4月14日のみとなっていたが、前回フランスで学会前日の午後フランス整形外科の何人かの有志によるフランスの人工関節に関するプレコングレス的なミーティングがあり甚だ好評であったので、今回も何らかの形で前日の午後(PM2:00頃から6:00頃まで)に会をしたいと思っている。その会のプログラムについては会長および事務局で現在検討中である。

4月14日は午前8時半頃からほぼ今までの会議と同じ形式で行う予定である。フランス側からの演題の出方によって日本側をどうするかが決められると思うが、何題かはこちらからも出すことが予想される。同時通訳は日仏を予定しているが、ディスカッションでは英語も使われることになろう。司会をしていただく先生がたには演題の内容等によってお願いすることになると思われるが、その折はよろしくお願い申し上げる次第である。

懇親会は第1日の夜Welcome Partyを催す予定であるが、日整会の会合もあるので同じ新高輪プリンスホテルで行うつもりである。第2日の夜のレセプションは芝、白金台の八芳園を考えているが、ここでは少し日本的な雰囲気味わっていただこうかと思っている。これらの懇親会には日本側の会員にも大勢参加して、会を賑やかにしていただければ幸いである。

第1回は1990年パリ、第2回1992年京都、第3回が1994年前述のように再びパリと回を重ねることに参加する人も増え、またお互いの気心もよくわかってきて忌憚のない意見の交換ができるようになった。整形外科関係の意見ばかりでなく、懇親会などでは両国の風俗や習慣などあるいはお互いの家族の話さえ出て、言葉の壁を越えて相互の理解が深められたと思う。次回はさらに今まで以上にすばらしい内容の学会をし、我々の厚意が伝えられるような歓迎をしたいと思っている。

フランス側ではCourpied新会長ほか現在ツアーを組んで来日を考えているとのことである。せっかく遠方からきていただいて、我々がパリでえたと同じような感銘を今度は彼らが日本において受けとってもらいたいと願うものである。日仏整形外科学会々員の皆様には何とぞご協力のほどよろしくお願い申し上げる次第である。



第 6 回 日 仏 整 形 外 科 学 会 プ ロ グ ラ ム

1995年 5 月10日(水) 午後 6 時15分から
大阪国際交流センター 小ホール



S.O.F.J.O.

第6回 日仏整形外科学会 プログラム

- 1) 日 時
1995年 5 月10日(水) 午後 6 時15分から
(第39回日本リウマチ学会第1日目終了後)
- 2) 場 所
大阪国際交流センター 小ホール
〒543 大阪市天王寺区上本町 8 丁目 2 番 6 号
電話 06-772-5931
- 3) 内 容
 - 1) 開会の辞 七 川 敏 次
 - 2) 一般演題 司 会 小 林 晶
 - ① Rotational acetabular osteotomy :
a rabbit model.
Yuji YASUNAGA, Mitsuo OCHI,
Yoshikazu IKUTA, Kouichi
SHIMOGAI, Daisuke DOHI
(Hiroshima University School of
Medicin)
 - ② Bone and soft tissue tumors and
tumorous conditions occurred in
the foot.
Michihito ISHIZAWA, Tokuhiko
CHANO, Shigeru MORIMOTO,
Keiji MATSUMOTO,
Sinsuke HUKUDA
(Shiga University of Medical Sci-
ence)

- 3) 特別講演 司 会 小野村 敏信
「小児悪性骨腫瘍における切断と患肢温
存手術」
Prof. Rémi KOHLER (Lyon 大学
教授)
(日整会教育研修講演 1 単位)
- 4) 帰朝報告 司 会 瀬 本 喜 啓
日仏整形外科学会青年整形外科医交換
研修
平成 5 年度……… 小 浦 宏 (岡山大学)
平成 6 年度……… 西川真史 (弘前大学)
- 5) 総 会
- 6) 閉会の辞 菅 野 卓 郎
- 7) 懇 親 会 本会終了後 (8 時頃より)
(大阪国際交流センターホテルにて)
- 4) 学会参加費………三千元
(日整会教育研修講演は別に千円必要です)

日仏整形外科学会
会長 七 川 敏 次

事務局 :
大阪医科大学整形外科学教室
〒569 大阪府高槻市大学町 2 - 7
電話 (0726) 83-1221 代表
(内線) 2364
FAX (0726) 82-8003

日仏整形外科学会青年整形外科医 交 換 研 修 帰 朝 報 告

日仏整形外科学会の交換研修制度でのフランス訪
問記

大阪大学整形外科
岩崎 幹季

【はじめに】

私はフランスでの脊椎外科を見学するべく、パリの
Hopital Saint Joseph と Hopital Beaujon を訪問させ
て頂きました。日仏整形外科学会フランス側会長 Pr.
Courpied、前会長 Dr. Picaut 両先生には多大な御尽力
を賜わり、この場をお借りして感謝いたします。また、
訪問先の Chef である Dr. Guillaumat (Hopital Saint
Joseph) と Pr. Deburge (Hopital Beaujon) 両先生に
は、日本ではまだ少ない成人側彎症やその他の脊柱変形
を見せて頂く機会を与えて頂くと共に様々な Discussion
に参加させて頂き感謝いたします。

【研修目的】

交換研修は 3 ヶ月という限られた期間でしたので、フ
ランスへ行く前には主に 2 つの目的を考えて行きました。

ひとつは、＜フランス脊椎外科の技術と進歩を見てくる
こと＞です。フランスでは 1980 年代はじめての CD 以来
脊椎インストルメンテーションが盛んに行われるよう
になり、その源であるフランスの脊椎外科医 : Pr. Dubousset
や Dr. Guillaumat の手術を見学して、その concept につ
いて教わることで得ることは多いと考えました。しかし、
その技術や新しいインストルメンテーションでもいずれ
古いものになってしまいます。そこで、こちらの方がよ
り重要な目的だったのですが、＜フランスの整形外科医
の臨床治療や基礎研究に対する考え方を理解すること＞
です。脊椎外科に限らず、なぜ外科医の地位確立や近代
外科の進歩が、16 世紀のアンブロアズ・パレに代表され
るようにフランスで進んできたのか？を少しでも知りた
かったのです。

【結果】

まず症例については、成人側彎症に対する後方からの
矯正および固定術を多く経験できました。もうひとつ多
く手掛けていたのが麻痺性側彎症で、そのなかでも特に
CP (フランスでは infirme moteur cérébral / IMC と
略す) に伴う麻痺性側彎症を多く見学できました。骨盤
の傾斜や腰仙椎の前彎増強がある症例 (歩行不能の症例)
では、腸骨外側から仙骨にスクリューを通して腰部のロッ
ドとの間に矯正力を加えて矯正していました。このよう

な成人側彎症や麻痺性側彎症以外にも以前にインストルメンテーション手術を受けたのちの revision surgery も多く、やはり脊椎インストルメンテーションについては様々な技術や合併症について研修できました。

次に、第二の目的に関してですが、私自身どれ程この目的を達成できたか疑問ですが、私なりに思いついたことを書くことにします。フランスに行く前は、フランス人医師は早くに仕事を切り上げ、ワインなど飲みながら自分の生活を毎日楽しみ、他人と同じものを嫌いつつ、独自のものを開発していく外科医を想像していました。しかし、現実には私が見た整形外科医は、全く違っていました。長時間手術でも毎日のように丁寧にこなし、そのあと疲れていても8時頃まで外来をしており、私の見るかぎり外科医としての仕事量はかなり多く、それを実にタフにかつ自信に満ちてこなしていました。したがって、私の見たフランス人外科医は基礎研究をする暇などないようでした。また、基礎研究にはさほど興味もないようでした。臨床に関しては、研修医の時からその後にかけても、意外にもかなり徒弟制度が存在しているようでした。徒弟制度のなかで徹底的に教わり、自分がChefになればその教わったことを基礎に自らのオリジナリティーを切り開いていくような気がしました。つまり、伝統的なことは充分重んじ、その上に自分独特の何かを積み重ねていく風潮があるのでしょうか。その基本としてはやはり患者をよく観察し、手術もそれに没頭し、もし今の治療法で満足できなければ、どのような解決法があるのかをじっくり考える。そして、診察にしても手術にしてもそれを詳細かつ客観的に（つまり後に他人が見てもわかるように）記載することを日常の仕事として、当然のことのようにこなしている。これを見ていて、私は医師として最も基本的なことを忘れているか、わかっているも実行していない自分を恥ずかしく感じました。

5月の中旬から最後の2週間はリオンを訪ねました。整形外科の分野では特にNicolas Andryという名前は有名でしょう。18世紀中頃彼の出版のなかで初めてOrthopédieという言葉を使った医者です。さて、リオンではPicaut先生の親切な計らいで、リオン郊外のCentre de Massuesというリハビリ病院とClinique du ParcというPrivate clinicを訪問しました。Centre de Massuesでは、ChefのDr. Roussoulyの新しい脊椎インストルメンテーションを使つての脊椎矯正術や脊椎のmotion analysisが印象的でした。Clinique du Parcでは、Dr. de Mauroy（内科医）のOrthopaedic medical treatmentの診察や装具療法を見学し、外科的治療以前の保存療法の重要性を実感しました。このようなOrthopaedic medical treatment（整形内科とでもいうべきものか？）やRheumatologistと外科医が良い関係で常に患者の治療方針でDiscussionできるシステムが大切に感

じられました。

【頸髄症に対する laminoplasty について】

日本では私達は頸髄症に対して主に laminoplasty を選択していますが、フランスを含め西欧では何故 laminoplasty が popular ではないのか？をPr. Deburge に質問してみました。彼によると、以下のような理由を述べておられた。

1) laminoplasty が本当に laminectomy に比べ優れているのかまだ不安であること。laminectomy の場合 facet の処置の仕方での後の変形など差があるのはわかるが、やはり laminectomy 後の様々な合併症が同じように laminoplasty でも危惧されること。2) 手術手技が難しい印象であること。したがって、彼の施設を含めフランスでの主な治療法は前方除圧固定術であり、当然のことながら骨移植に関する合併症は少なからず存在するようでした。



Dr. Guillemaut (Hopital Saint Joseph)



Pr. Deburge (Hopital Beaujon) と私

【最後に】

以上フランス整形外科はその深い歴史を基盤に学ぶことが豊富でした。しかし、問題として、おそらく言葉の問題でしょうか？、お互い理解し合うことが難しいか時間がかかるを感じざるを得ません。そのためにも、この会が単に受入先を紹介するだけでなく、フランスに^づてがなくまたフランス語ができなくても、フランスか

ら短い期間で多くのことが学べるよう積極的に橋渡しとなり、交換研修の充実さを図るべきであると切に感じます。最後に、交換研修の機会を与えていただいた七川欽次会長はじめ日仏整形外科学会の諸先生方々、フランスでの生活に色々と助言をいただいた瀬本喜啓先生ならびにリオンのジラン夫人には心からお礼いたします。

フランス核実験に対して

現在、フランスが行っている核実験に関して、七川会長がフランス大統領宛に手紙を送られました。これに対してフランス政府から返答がありました。ここにその全文とその日本語訳を紹介いたします。

Monsieur le Président
de la République J. CHIRAC

Palais de l'Élysée
rue du Faubourg-Saint-Honoré
PARIS
FRANCE

Osaka, le 28 août, 1995

Monsieur le Président de la République,

Je vous prie de m'excuser de vous adresser cette lettre, en tant que Président de la Société Franco-Japonaise d'Orthopédie, après longue réflexion et beaucoup d'hésitation et de vous demander d'arrêter les essais nucléaires qui seront faits aux environs d'un île dans la mer pacifique, au début du mois de septembre prochain.

Nous nous sommes efforcés jusqu'ici d'avancer la relation culturelle et scientifique, entre la France et Japon, surtout dans le domaine de notre spécialité, ayant toujours le respect et l'attachement particulier pour la France. Notre Société a été créée en 1986 et nous avons une réunion scientifique tous les ans, en invitant un conférencier français. De plus nous avons l'Association Franco-Japonaise d'Orthopédie qui a été fondée en 1990 en collaboration avec la Société Française de Chirurgie Orthopédique et Traumatologique, dont le bureau siège dans l'Hôpital Cochin. Cette Association organise une réunion scientifique qui se tient tous les 2 ans à PARIS ou dans une grande ville japonaise alternativement et s'occupe aussi de l'échange des jeunes chirurgiens orthopédiste entre deux pays, comme stagiaire dans des Hôpitaux Universitaires sous la patronage de la Société respective.

Nous pensons que les essais nucléaires sont maintenant inutiles et encore écologiquement intolérables. Bien que nous ayons l'aspiration à des activités culturelles et scientifiques françaises et une entière confiance en l'intelligence du peuple français, nous devons affirmer que les essais nucléaires que le gouvernement français tente de poursuivre, malgré le mouvement mondial anti-nucléaire, vont blesser profondément l'image que fait la France comme un pays suprême de la culture humaine et la dégrader jusqu'à celle d'un pays comme les autres.

Je vous prie de m'excuser, si je vous ai fait une demande trop audacieuse, mais de comprendre, Monsieur le Président de la République, comment le peuple japonais est soucieux de et alerte à des armes nucléaires qui s'étendent de plus en plus, menaçant la vie humaine, dans le monde entier.

Je vous prie de bien vouloir agréer, Monsieur le Président de la République, l'expression de ma très haute considération.

Kanji Shichikawa
Président Kanji SHICHIKAWA

フランス大統領閣下

私は日仏整形外科学会会長の名において、長い熟慮と躊躇の末この手紙をお出しすることになりました。そして、きたる9月の初めに太平洋上の島の周辺で行われようとしている核実験の中止をお願いしたく存じます。

我々はこれまでフランスに対する特別の敬愛の念をもって、フランスと日本との間の科学および文化の上での、特に我々の専門領域での関係を促進するため努力してきました。日仏整形外科学会は1986年に発足し、毎年学術集会を開き、そのさいフランスから講師を招待しています。我々はまたフランス整形外科災害外科学会との間で日仏整形外科合同会議を1990年に設立いたしました。この事務所はCochin病院にあり、学術集会を隔年に、パリあるいは日本の大都市で交互に開催しています。また両国の間で若い整形外科医の大学院での交換研修をそれぞれの学会の支援の下に行ってきたております。

我々は核実験は現在では無意味なものである上に、環境の面からも許し難いものと考えるものです。我々はフランスの文化および科学的活動に啓発され、賢明なフランス国民に全幅の信頼を置くものでありますが、世界的な反核運動にもかかわらず、フランス政府があえて進めようとしている核実験は、最高的人类文化を具えた国としてのフランスのイメージを著しく傷つけ、くだらない国の一つにしてしまうであろうということは認めざるを得ません。

私があまりに出すぎた要求をお書きしているとすれば、大統領閣下お許し願いたいのですが、日本の国民が、次第に全世界に蔓延しようとしている、生命を脅威に陥しつづつある核兵器を、いかに憂慮し警戒しているかを理解して戴きたく存じます。

会長 七 川 欽 次

PRÉSIDENCE
DE LA
RÉPUBLIQUE

Le Directeur de Cabinet
SC/8/I79682

Paris, le

15 SEP. 1995

Monsieur le Président,

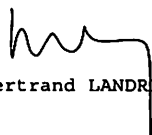
Votre lettre du 28 Août 1995 sur la question des essais nucléaires a retenu toute l'attention du Président de la République française qui m'a confié le soin de vous répondre.

Les très larges consultations auxquelles le Président de la République française a procédé depuis sa prise de fonction ont montré qu'une ultime série d'essais souterrains dans le Pacifique était nécessaire pour permettre à la France de disposer en toutes circonstances d'une force de dissuasion fiable et sûre. Celle-ci garantit la protection des intérêts vitaux de la France et constitue un élément essentiel pour la stabilité et la paix en Europe.

Cette dernière série d'essais sera limitée en nombre, car elle en comportera huit, et dans le temps, puisqu'elle s'achèvera au plus tard le 31 mai 1996. Elle apportera à la France les données scientifiques et techniques qui lui permettront de s'engager sur la voie de la simulation et de se dispenser ainsi de nouveaux essais à l'avenir. Des missions scientifiques pourront se rendre sur place afin de s'assurer de l'innocuité de nos essais, tant pour les populations que pour l'environnement de la région. Aucun pays n'avait jusqu'alors réalisé un tel effort de transparence.

Cette décision est pleinement compatible avec les obligations internationales contractées par la France. Elle lui permettra en particulier de se joindre, avant la fin de l'année 1996, à la conclusion du traité d'interdiction complète des essais nucléaires. Le Président de la République française a clairement confirmé l'engagement de la France sur ce point. L'initiative française visant à l'interdiction, dans le cadre du futur traité, de tout essai nucléaire quel qu'en soit le niveau, s'inscrit dans cette perspective.

Je vous prie d'agréer, Monsieur le Président, l'expression de ma considération distinguée.



Bertrand LANDRIEU

Monsieur Kanji SHICHIKAWA
Président de la Société Franco-Japonaise d'Orthopédie
Osaka Medical College Dep. of Orthopedic Surgery Takatsuki
OSAKA 569
JAPON

核実験についての貴殿の1995年8月28日付けの手紙は、私に貴殿への返事を委任したフランス大統領の大いなる注意を留めました。

着任以来フランス大統領の行なった幅広い評議は、フランスがあらゆる状況下に於いて信頼でき且つ確かな抑止力を保持する為に、最後の一連の太平洋に於ける地下実験が必要であることを示しました。

これは、フランスの非常に重要な利益の保護を保障し、ヨーロッパに於ける安定と平和の為の本質的な要素を成すものです。

この最後の一連の実験は、数そして期間に於いて制限されており、それは8回から成り、遅くとも1996年5月31日までに終結します。

これはフランスに科学的且つ技術的データをもたらし、模擬実験（シミュレーション）の道へ進むこと、同様に将来に於いて新

たな実験を免れることを可能ならしめます。

住民の為に、同様に地域の環境の為に、我々の実験が無害であることを保障する為に、学術調査隊が現地に赴くことができます。

これまでどのような国も明瞭にする為にここまでの努力をしたことはありませんでした。

この決定はフランスの負う国際義務に全く矛盾のないものです。殊に、これより1996年末以前に、核実験の全面禁止条約の結論に加わることができます。

フランス大統領は、この点へのフランスの参加をはっきりと確認しました。

将来の条約に於いて、フランスは自発的に規模にかかわらず核実験の全面禁止を目指し、この展望に参加致します。

森崎直木先生への追悼

森崎直木先生の突然の（と私には思えた）ご逝去の報に接した時は本當にびっくりし、文字通り痛惜の念に駆られた。フランスの整形外科を深く理解し、特別の愛着をもっておられた、かけがえのない先達が亡くなったとの思いからである。

我々の日仏整形外科学会が誕生し、その後会が東京であった時には、先生はいかにも楽しそうな面持ちで出席されていて、挨拶をお願いしたりした。

昭和42年に先生が日本リウマチ学会の会長をされた時、旧知のフランスのLièvre教授を招待し、同教授の得意の副甲状腺機能亢進症のレクチャーをして戴いた。東京での滞在の後リエール教授を森崎御夫婦が京都まで連れてこられるというので、私ども夫婦で京都のホテルへ迎えにいった時の印象は今でも鮮かである。森崎先生の奥さんが東京を離れることは少なく、関西は始めてきましたといっていたのに答えて、家内が、私も東京へ行ったことはありませんといって皆で笑ったのを憶い出す。森崎先生はその後整形外科の教科書を書かれ、大へん好評であったが、私は随所にフランスの流儀を見出して、ほくそ笑んだものである。

森崎先生は長く、昭和40年から50年にかけて整形外科学術用語委員長をされていて、私も委員を務めさせてもらったことがある。その時はよく知らなかったが、先生の文献の渉獵は徹底していたということであるから、用語委員の仕事は先生にとってやり甲斐のあるものであったにちがいない。果せるかな、先生が日仏整形外科学用語集 Terminologie de Chirurgie Orthopédique Français-Japonais を1989年に出版された時は驚嘆させられた。晩年にこれだけの仕事ができるのは只事ではないと私には思えた。のみならず、フランスの整形外科の論文を読み、理解するのにどれ程か役立ち、日仏整形外科学の交流にはかり知れず貢献するものであると思った。そこで平成4年の第2回の京都での日仏整形外科合同会議（AFJO）のさいに、日仏整形外科学会として表彰状を贈らせて戴いた。このAFJOの晩餐会のガーデンパーティーにもおそくまで付き合っただが、疲労が露で、いつもとちがって表情が少し険しくなっていた。私は森崎先生のご厚意に心ひそかに感謝せずにはおられなかった。

先生は日仏整形外科学用語集をその後（1991年）改訂し、立派にされた。1993年には追加と訂正の小冊子が出された。その時満80歳ということである。これには、その氣迫にまた驚かされた。

過日、森崎夫人からご葬儀の後の挨拶状を戴いた。それには次の和歌が添えられていた。

弛みなく、医学の道を究めきし、
夫の一世は鎮かに閉じぬ

この一句は鮮烈で、胸を打つ思いがこみあげてきた。

先生の遺された用語集は後輩に永く伝えたいので、先生の志を継いで、できれば日仏整形外科学の支援で、今後より完成したものにできればと思っている。

平成7年12月11日

七 川 敏 次

日 仏 整 形 外 科 学 会

平成六年度会計報

歳入の部

単位：円

*一般会員年会費	345,000
*賛助会員	
医療関連企業	1,000,000
一般企業	1,800,000
*寄付金	
医療関連企業	400,000
一般企業	800,000
*雑収入	134,500
広告料	130,000
預金利息	4,500
*前年度繰越金	3,835,953

計 8,315,453

歳出の部

単位：円

*日本人交換整形外科医奨学金	300,000
*フランス人交換整形外科医奨学金	0
*日仏整形外科学会事務局	1,590,174
通 信 費	381,200
事 務 費	221,128
会 議 費	6,440
人 件 費	323,592
旅費・交通費	202,760
印 刷 費	455,054
*次年度繰越金	6,425,279

計 8,315,453

平成七年度事業費予算編成

歳入の部

単位：円

*一般会員年会費	300,000
*賛助会員	
医療関連企業	1,500,000
一般企業	1,400,000
*寄付金	
医療関連企業	500,000
一般企業	500,000
*雑収入	500,000
*前年度繰越金	6,425,279

計 11,125,279

歳出の部

単位：円

*日本人交換整形外科医奨学金	
渡航費＋滞在費（一部） 300,000×2	600,000
*フランス人交換整形外科医奨学金	
滞在費、交通費（3カ月）150,000×2人×3カ月	900,000
*第六回日仏整形外科学会	
開催費援助	2,000,000
*日仏整形外科学会関連事業	
表彰など	200,000
*日仏共同研究、研究助成	500,000
*日仏整形外科学会事務局	2,000,000
（通信、会合、人件、印刷費）	
*予備費	100,000
*次年度繰越金	4,825,279

計 11,125,279

第4回日仏整形外科合同会議

4ème Réunion de L'A.F.J.O.

4ème réunion de l'Association France Japon D'Orthopédie

この度、下記の要領で第4回の日仏整形外科合同会議(4ème réunion de l' AFJO)を開催いたします。先生方のご参加をお待ちいたします。

- 1) 日時: 平成8年4月13日(土)・14日(日)
- 2) 場所: 東京新高輪プリンスホテル「福寿」
第69回日本整形外科学会にあわせて開催いたします。

公用語: 日本語、フランス語、英語

(日本語とフランス語には同時通訳致します)

日本側の演題募集については事務局までお問い合わせください

第4回日仏整形外科合同会議

会長 七川 敏次 (日仏整形外科学会 会長)

実行委員長 菅野 卓郎 (日仏整形外科学会 副会長)

連絡先: 第4回日仏整形外科合同会議 組織委員会 事務局
大阪医科大学整形外科学教室 (係: 瀬本)
〒569大阪府高槻市大学町2-7 電話0726-83-1221

AFJO フランス側役員



写真左から

Dr. Marc CHASSARD (書記)

Prof. Rémi KOHLER (副会長)

Prof. Jean P. COURPIED (会長)

M^{me}. Girin Komori Keiko

(公式連絡員: ボランティア)

Dr. Charles PICAULT (名誉会長)

フランス人研修医の受け入れのお願い

本年度も日仏整形外科学会とフランス整形外科学会(SOFCOT)との間で、青年整形外科医の交換研修を実施致します。現在までに日本側では39ヶ所の施設で受け入れを承諾頂いておりますが、来年以降さらに日本側の受け入れ体制を充実しフランス側に提示したいと考えております。受入期間は原則として3カ月ですが、1カ月でも2カ月でも結構ですので、是非会員の先生方のおられる施設で、フランス人整形外科医の研修を受け入れて頂きたいお願い申し上げます。

来日するフランス人医師は、英語を話すことが条件になっております。また日仏間の旅費はSOFCOTが支給し、日本での滞在費(宿泊費、旅費)は、日本側(原則として受け入れ施設)が負担することになっております。受け入れを承諾していただける場合は別紙の受け入れ承諾書に滞在条件等をご記入いただき、係りまでご送付下さい。現在までに受け入れを御承諾いただいた施設は右記のごとくです。これらの施設の先生がたは、受け入れ条件等の変更がありましたら御連絡下さい。変更がないようでしたらあらためて承諾書をお書きいただく必要はありません。登録漏れや誤りがありましたら、事務局まで御一報下さい。

また日本から派遣する医師の募集を行っております。お心当りの先生がおられましたらご応募いただくようお勧め下さい。

日仏整形外科学会 会長 七 川 敏 次
日仏整形外科学会 交換研修係 小野村敏信

連絡先：大阪医科大学整形外科内
〒569 大阪府高槻市大学町2-7
FAX (0726) 82-8003
電話 (0726) 83-1221 代表
内線 2545 (係 瀬本喜啓)

日仏整形外科学会 仏人青年整形外科医受け入れ施設一覧

敬称略 94. 12. 20現在

施 設 名	受入責任者名
国立大阪南病院	村 田 紀 和
東海大学医学部附属病院 整形外科	福 田 宏 明
金沢大学医学部附属病院 整形外科	富 田 勝 郎
浜松医科大学 整形外科	井 上 哲 郎
長崎大学医学部 整形外科	岩 崎 勝 郎
札幌医科大学 整形外科	石 井 清 一
広島大学医学部 整形外科	生 田 義 和
滋賀県立小児保健医療センター	笠 原 吉 孝
京都第二赤十字病院 整形外科	岩 破 康 博
北里大学医学部 整形外科	塚 本 行 男
宮崎医科大学 整形外科	田 島 直 也
大阪医科大学 整形外科	小野村敏信
産業医科大学 整形外科	鈴 木 勝 巳
順天堂大学 整形外科	山 内 裕 雄
総合せき損センター	上 崎 典 雄
順天堂浦安病院	一 青 勝 雄
岡山大学 整形外科	井 上 一
弘前大学 整形外科	原 田 征 行
旭川医科大学 整形外科	竹 光 義 治
東京通信病院整形外科 関節鏡研修センター	池 内 宏
福岡市立こども病院・感染症センター	藤 井 敏 男
福岡整形外科病院	小 林 晶
自治医科大学整形外科学教室	大 井 淑 雄
徳島大学医学部 整形外科	井 形 高 明
神戸大学医学部 整形外科	水 野 耕 作
財団法人 新潟手の外科研究所	田 島 達 也
岩手医科大学 整形外科	阿 部 正 隆
北海道大学医学部 整形外科	金 田 清 志
慶応大学医学部 整形外科	矢 部 裕
熊本整形外科病院	坂 口 満
北里大学医学部 整形外科	糸 満 盛 憲
東京女子医科大学付属 膠原病リウマチ痛風センター	井 上 和 彦
獨協医科大学 整形外科	早乙女紘一
京都府立医科大学 整形外科学教室	平 澤 泰 介
愛知医科大学	丹 波 滋 郎
九州大学 整形外科	杉 岡 洋 一
近畿大学医学部 整形外科	田 中 清 介
山口大学医学部 整形外科	河 合 伸 也
滋賀医科大学 整形外科	福 田 真 輔
横浜市立大学医学部 整形外科	腰 野 富 久
名古屋大学 整形外科	岩 田 久

日仏整形外科学会青年整形外科医交換研修への参加希望者募集

日仏整形外科学会では、フランス整形外科学会（SOFECOT）との間で青年整形外科医の交換研修を行います。研修条件、応募条件等は下記のとおりです。申請書の請求及び詳細については下記までご連絡下さい。

- 1) 募集条件 若干名（平成8年度）
- 2) 応募条件 日本整形外科学会の認定医であること。
原則として40歳を応募年齢の上限とします。
その他の詳しい条件は下記の事務局までお問い合わせ下さい。
- 3) 研修条件
 1. 滞在期間は3カ月を原則とする。
 2. 費用について
 - a) 渡航費用の一部を日仏整形外科学会が援助する。
 - b) フランス滞在中の本人の宿泊費と食費はSOFECOTが負担する。
 3. 本年度の研修開始時期は平成8年度中とする。
 4. 研修を希望する分野に応じてSOFECOTが研修施設を推薦する。
 5. 研修期間中の家族の同伴は原則として認めない。
- 4) 申請締め切り 平成8年1月10日必着
- 5) 申請書類等については下記にご請求下さい。

〒569 大阪府高槻市大学町2-7

大阪医科大学整形外科学教室 日仏整形外科学会事務局

電話 (0726) 83-1221 代表 (内線) 2364 FAX (0726) 82-8003

お問い合わせは瀬本まで

日仏整形外科学会

会長 七 川 敏 次

編集後記

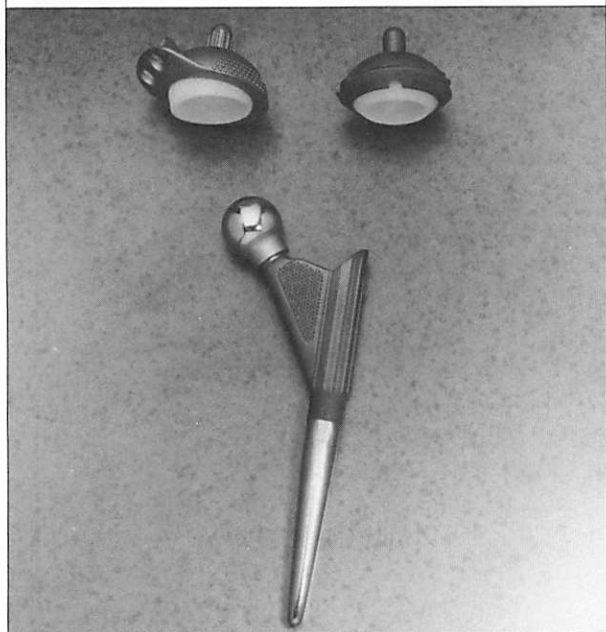
1995年、1月の阪神大震災で幕を明け、オウム真理教関連の事件等々想像を上回る出来事に日本中が振り回されました。一方、フランスでも核実験の実施で国際的に大きな論議を呼んでいます。このような時に、AFJOフランス側会長Courpied先生から震災に際してメッセージをいただいたり（前号に掲載）、日本側会長七川先生の核実験に関する手紙に対し、フランス政府から返答をいただくなど本学会が整形外科のみの日仏の交流だけではなく、さらに広い交流の会になっていることを実感いたしました。来年は東京で第4回日仏整形外科合同会議が開催されます。日仏両国の先生方にまた新たな出会いができることと思います。

Joyeux Noël et Bonne Année !

係 大橋（大阪市立大学整形外科）

フリーマン・トータル・ヒップ

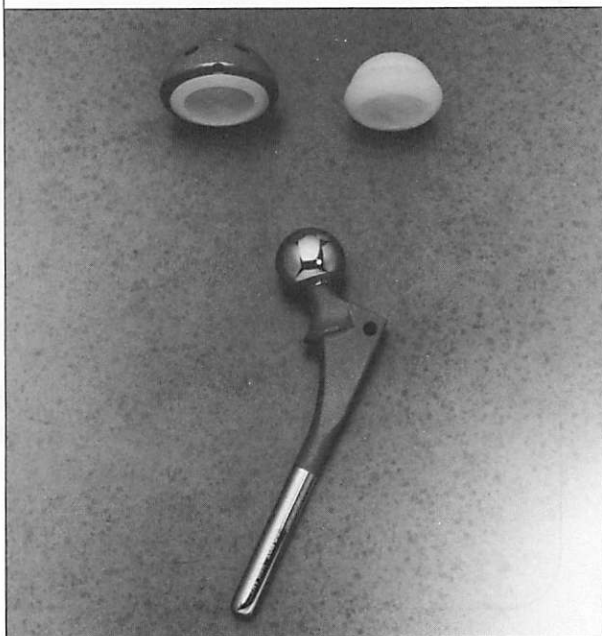
大腿骨頸部を温存する事により、近位部における強固なプレスフィットを実現しました。
(遠位部は、ポリッシング加工によりストレスを抑えます。)



C-Fit トータル・ヒップ

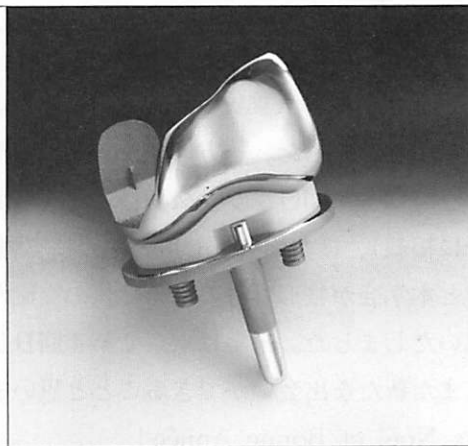
楔状ステムにより沈み込みに対する抑制力が強化されています。

(遠位部は、ポリッシング加工によりストレスを抑えます。)
カップにスクリーホールを多く設ける事により臼蓋側のスクリー固定の位置選択が容易になっています。



ロータグライド・トータル・ニー

完全に合致する関節インターフェースにより、膝の自然な動きを再現する事が可能となりました。



- 慢性胃炎、胃切除後症候群に伴う消化器症状に
(胸やけ、食欲不振、悪心・嘔吐、上腹部痛、腹部膨満感)
- 逆流性食道炎に
- 偽性腸閉塞(特発性)に



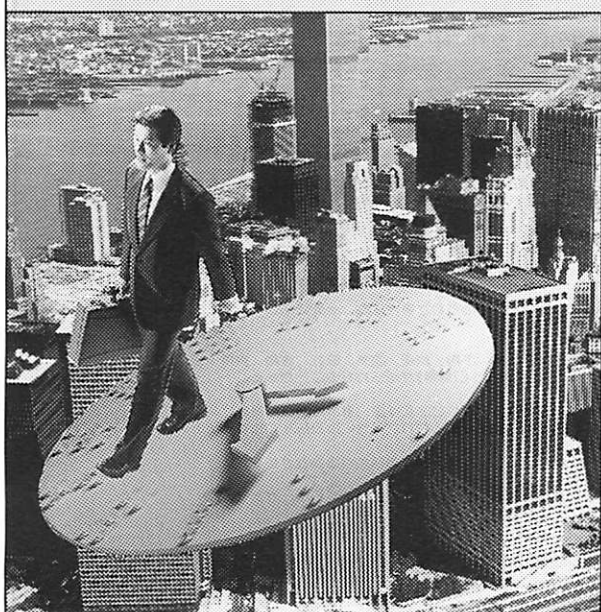
リサモールは生理的な消化管運動を
賦活調整します。

消化管運動賦活調整剤

⑦ **リサモール[®]錠細粒**
Risamol[®] シサプリド

提携：ヤンセン社・ベルギー

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、
逆流性食道炎、Zollinger-Ellison症候群に



オメプラゾンは胃酸分泌の
最終過程であるアシッドポンプを
制御することにより、
胃酸分泌を確実かつ持続的に
コントロールします。

アシッドポンプ・インヒビター

⑦ **オメプラゾン[®]錠**
Omeprazon[®] オメプラゾール

提携：アストラ社・スウェーデン

※〈効能・効果〉〈用法・用量〉〈使用上の注意〉等については
添付文書をご参照ください。〈健保適用〉



〈資料請求先〉

吉富製薬株式会社

〒541 大阪市中央区平野町二丁目6番9号

RS・OM-3 (B5) 1993年6月作成

Didronel®



(劇) (指) (要指) 骨代謝改善剤 エチドロン酸 ニナトリウム錠 薬価基準収載

ダイドロネル®錠200

- 【効能・効果】 ● 下記状態における初期及び進行期の異所性骨化の抑制
脊髄損傷後、股関節形成術後
- 骨ペーজেット病
- 【用法・用量】 本剤の吸収をよくするため、服薬前後2時間は食物の摂取を避けること。
- 下記状態における初期及び進行期の異所性骨化の抑制
脊髄損傷後、股関節形成術後
通常、成人には、エチドロン酸ニナトリウムとして800～1000mgを1日1回、食間に経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。
- 骨ペーজেット病
通常、成人には、エチドロン酸ニナトリウムとして200mgを1日1回、食間に経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減できるが、1日1000mgを超えないこと。

【使用上の注意】(抜粋)

1. 一般的注意

- 骨ペーজেット病の場合
(1) X線写真、骨シンチグラフィ、生化学指標(血清アルカリフォスファターゼ、尿中/ハイドロキシプロリン)、骨生検、臨床症状から骨ペーজেット病と確定診断された患者にのみ投与すること。
- ② 本剤は骨の代謝回転を抑制し、骨形成の過程で骨の石灰化遅延を起こすことがある。この作用は、投与量と投与期間に依存しているため、次のことを守ること。
通常用量(200mg/日：2.5～5mg/kg相当)の場合、投与期間は6ヵ月を超えないこと。
また200mg/日の投与量を超える場合、投与期間は3ヵ月を超えないこと。
- ③ 再治療は少なくとも3ヵ月の休薬期間をおき、生化学所見、症状あるいはその他の所見で、症状の進行が明らかな場合にのみ行うこと。
- ④ 本剤を投与中に長管骨折が発生した場合は、化骨の癒合がみられるまで投与を中止することが望ましい。
- ⑤ 患者には適切な栄養状態、特にカルシウムとビタミンDの適切な摂取を保持するように指導すること。
- 下記状態における初期及び進行期の異所性骨化の抑制
脊髄損傷後、股関節形成術後 の場合
(1) 本剤は骨化の初期に近い程効果が期待出来るので、投与に際しては、次の点を考慮すること。
1) 脊髄損傷の場合：異所性骨化の初期と思われる局所の炎症所見(腫脹・熱感・疼痛)を認めた時点で投与を開始することが望ましい。
2) 股関節形成術の場合：手術直後から投与を開始することが望ましい。
② 通常用量(800～1000mg/日：15～20mg/kg相当)の場合、投与期間は3ヵ月を超えないこと。
- ③ 脊髄損傷患者で脊椎を骨移植で固定する術式の場合、本剤投与中に移植骨の癒合が遅延した例があるので、固定を優先する方が患者にとって望ましいと考えられる場合には、投与を避けること。
- ④ 本剤を投与中に長管骨折が発生した場合は、化骨の癒合がみられるまで投与を中止することが望ましい。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

- (1) 重篤な腎障害のある患者(排泄が阻害されるおそれがある。)
(2) 骨軟化症の患者(骨軟化症が悪化するおそれがある。)
(3) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人
(4) 小児

3. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 腎障害のある患者(排泄が阻害されるおそれがある。)
② 消化性潰瘍、腸炎の患者(本剤の主な副作用は消化器系であるため、症状が悪化するおそれがある。)

4. 相互作用

- 併用(摂取)に注意すること
(1) 食物、特に牛乳や乳製品のような高カルシウム食
(2) カルシウム、鉄、マグネシウム、アルミニウムのような金属を多く含むミネラル入りビタミン剤又は制酸剤
〔本剤の投与前後2時間以内は摂取及び服用を避けること。本剤はカルシウム等と錯体を作ること、また動物実験で非絶食投与により、吸収が低下することが確認されている。〕

5. 副作用

まれに：0.1%未満、ときに：0.1%～5%未満、
副作用なし：5%以上又は頻度不明

※ 次のような副作用が認められた場合には、必要に応じ、減量、投与中止等の適切な処置を行うこと。

※ (1) 消化器

ときに腹部不快感、下痢、軟便、嘔気、嘔吐、腹痛、食欲不振、胸やけ、便秘、また、口内炎(舌あはれ、口臭等)があらわれることがある。

② 過敏症

ときに発疹、また、まれに血管浮腫、蕁麻疹、痒疹等の症状があらわれることがある。このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

※ (3) 肝臓

ときにGOT、GPTの上昇があらわれることがある。

④ その他

ときに発熱、頭痛、咽乾熱感があらわれることがある。

(※ 1994年7月改訂)

(※ 1995年7月改訂)

■ その他の使用上の注意等については添付文書をご覧ください。

製造発売元 (資料請求先)

住友製薬株式会社

〒541 大阪市中央区区修町2丁目2番8号

Trademark and product under license from Procter & Gamble Pharmaceuticals, Inc., U.S.A



3M Modular Straight Moore Stem P-type/C-type

モデュー
ストレートムーア ステム
Cタイプ **セメント型**

モデュー
ストレートムーア ステム
Pタイプ **プレスフィット型**

スリーエム ヘルスケア株式会社
整形用製品事業部

本社 158東京都世田谷区玉川台2-33-1

横浜支店 電話(045)323-7645
名古屋支店 電話(052)322-9644
大阪支店 電話(06)305-7944
福岡支店 電話(092)525-0247

札幌営業所 電話(011)644-7411
仙台営業所 電話(022)214-1305
日本橋営業所 電話(03)5641-2830
府中営業所 電話(0423)62-1311

広島営業所 電話(082)247-2200
金沢出張所 電話(0762)24-8894

人がいる。夢がある。 **3M**

ニューキノロンが変わる。 強く、やさしく。より自在に…クラビット

LVFX

強さと広さを得て

ニューキノロンが変わります。

クラビットは

オフロキサシン(OFLX)よりさらに強い

抗菌活性と広い抗菌スペクトラムを有し、

急性から慢性・難治性感染症まで治療の幅が広がりました。

クラビットの
特徴

1. 適応23菌種におよぶ広い抗菌スペクトラム

2. 肺炎球菌や緑膿菌などに対しオフロキサシン

(OFLX)のほぼ2倍の抗菌力

3. 良好な組織移行性と未変化体での高い尿中排泄

4. 各種感染症に対し幅広く取得した52の適応症

5. 副作用の発現率は2.77%

6. 通常用量に加え、重症または効果不十分例への投与が可能

7. 錠剤に加えニューキノロン初の細粒剤

■効能・効果

ブドウ球菌属、肺炎球菌、化膿レンサ球菌、溶血レンサ球菌、腸球菌属、ペプトストレプトコッカス属、淋菌、ブドウ球菌、カタラリス、プロピオンバクテリウム・アクネス、大腸菌、シトロバクテリウム属、サルモネラ属(チフス菌、パラチフス菌を除く)、シゲラ属、クレブシエラ属、エンテロバクテリウム属、セラチア属、プロテウス属、コレラ菌、緑膿菌、インフルエンザ菌、アシネトバクテリウム属、カンピロバクテリウム属、クラミジア・トラコマティスのうち本剤感受性菌による下記感染症

●肺炎、慢性気管支炎、びまん性汎細気管支炎、気管支拡張症(感染時)、慢性呼吸器疾患の二次感染
●咽頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍)、急性気管支炎

●腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、副睾丸炎、淋菌性尿道炎、非淋菌性尿道炎

●子宮内感染、子宮頸管炎、子宮付属器炎、バルトリン腺炎

●毛嚢炎(膿疱性痤瘡を含む)、癰、癰腫、よう、伝染性膿瘍、丹毒、蜂巣炎、リンパ管(節)炎、化膿性爪周炎(膿瘻を含む)、皮下膿瘍、汗腺炎、集嚢性痤瘡、感染性粉瘤、肛門周囲膿瘍

●乳腺炎、外傷・熱傷・手術創等の(表在性)二次感染

●胆のう炎、胆管炎

●外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎

●眼瞼炎、麦粒腫、涙囊炎、結膜炎、眼板腺炎

●細菌性赤痢、感染性腸炎、サルモネラ腸炎、コレラ

●歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎

■用法・用量

通常、成人に対して、レボフロキサシンとして1回100mg(錠：1錠または細粒：1g)を1日2～3回経口投与します。なお、感染症の種類および症状により適宜増減しますが、重症または効果不十分と思われる症例にはレボフロキサシンとして1回200mg(錠：2錠または細粒：2g)を1日3回経口投与してください。

■使用上の注意

下記のことにご注意してください。

本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最少量の期間の投与にとどめること。

1. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

1) 本剤の成分およびオフロキサシンに対し過敏症の既往歴のある患者

2) 妊婦または妊娠している可能性のある婦人(「妊婦・授乳婦への投与」の項参照)

3) 小児(「小児への投与」の項参照)

2. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

1) 高度の腎障害のある患者
[高い血中濃度の持続が認められている。]

2) てんかん等の虚れん性疾患またはこれらの既往歴のある患者[虚れんを起こすことがある。]

3) キノロン系抗菌剤に対し過敏症の既往歴のある患者

4) 高齢者(「高齢者への投与」の項参照)

3. 相互作用 併用に注意すること

1) フェニル酢酸系またはプロピオン酸系非ステロイド性消炎鎮痛剤[虚れんを起こすおそれがある。]
2) アルミニウムまたはマグネシウム含有の制酸剤、鉄剤
[本剤の吸収が低下し、効果が減弱されるおそれがある。]

4. 副作用(「まれに」：0.1%未満 「ときに」：0.1～5%未満 副詞なし：5%以上または頻度不明)

1) 重大な副作用

下記の重大な副作用がまれにあらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(1) ショック、アナフィラキシー様症状

(初期症状：紅斑、悪寒、呼吸困難等)

(2) 中毒性表皮壊死症(Lyell症候群)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)

(3) 虚れん

(4) 急性腎不全

(5) 黄疽(初期症状：嘔気・嘔吐、食欲不振、倦怠感、痒痒等)

(6) 無顆粒球症(初期症状：発熱、咽頭痛、倦怠感等)

(7) 間質性肺炎

(症状：発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球増多等)

(処置方法：副腎皮質ホルモン剤投与等)

(8) 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎

(症状：腹痛、頻回の下痢等)

(9) 横紋筋融解症(急激な腎機能悪化を伴うことがある)

(症状：筋肉痛、脱力感、CPK上昇、血中および尿中ミオグロビン上昇等)

2) 海外での重大な副作用

下記の重大な副作用が海外において他のニューキノロン系抗菌剤でまれに報告されているので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(1) アキレス腱炎、腱断裂等の腱障害

(2) 過敏性血管炎

(3) 錯乱、抑うつ等の精神症状

3) 頻度での重大な副作用

下記の重大な副作用が他のニューキノロン系抗菌剤で

まれに報告されているので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(1) 低血糖(高齢者、特に腎障害患者であらわれやすい)

4) その他の副作用

(1) 過敏症 まれに浮腫、じん麻疹、熱感、光線過敏症、また、ときに発疹、痒痒等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2) 精神神経系 まれに振戦、しびれ感、視覚異常、耳鳴、幻覚、眩暈、また、ときに不眠、めまい、頭痛等があらわれることがある。

(3) 腎臓 とくにBUN、クレアチニンの上昇等があらわれることがある。

(4) 肝臓 とくにGOT、GPT、A/P、 γ -GTPの上昇等があらわれることがある。

(5) 血液 とくに貧血、白血球減少、血小板減少、好酸球増多等があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止すること。

(6) 消化器 とくに悪心、嘔吐、腹部不快感、下痢、食欲不振、腹痛、消化不良、まれに口内炎、舌炎、口渇、腹部膨満感、便秘等があらわれることがある。

(7) その他 まれに倦怠感、発熱、動悸、味覚異常があらわれることがある。

5. 高齢者への投与

本剤は、主として腎臓から排泄される(「体内薬物動態」参照)が、高齢者では腎機能が低下していることが多いため、高い血中濃度が持続するおそれがあるため1回100mg、1日2回など投与量ならびに投与間隔に留意し、慎重に投与すること。

6. 妊婦・授乳婦への投与

1) 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦または妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。

2) オフロキサシンで母乳中へ移行することが知られているので、授乳婦への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合は授乳を避けること。

7. 小児への投与

小児に対する安全性は確立していないので、小児には投与しないこと。

8. その他

動物実験(幼若犬、若い成犬(13ヵ月齢)、幼若ラット)で関節異常が認められている。

★取扱い上の注意などにつきましては、製品添付文書をご参照ください。



広範囲経口抗菌製剤

クラビット® 錠・細粒

Cravit® (レボフロキサシン製剤)

薬価基準収載

いのち、ふくらまそう。

第一製薬株式会社

資料請求先
東京都中央区日本橋三丁目14番10号

副腎皮質ホルモン剤 指 要指

ソル・メドロール®

40・125・500・1000

警告

血清クレアチニンの高値を示す敗血症症候群及び感染性ショックの患者で本剤の大量投与により死亡率を増加させたとの報告がある。投与に際しては患者の選択、用法・用量に特に留意すること。

禁忌（次の患者には投与しないこと）

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

（詳細は製品添付文書をご参照ください）

PRODUCT OF

Upjohn

STERIOD
RESEARCH

資料請求先

日本アップジョン株式会社 医薬情報部

東京都新宿区西新宿 6-5-1

- 関節組織を被覆・保護し、発痛物質による疼痛を抑制します。(ウサギ・ラット)
- 軟骨代謝を改善し、関節軟骨の変性を抑制します。(ウサギ)
- 副作用は、9,574例中50例(0.52%)にみられました。



関節機能改善剤

① **アルツ**[®]
② **アルツ** **ディスポ**[®]
(ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液)

(効能・効果) 変形性膝関節症、肩関節周囲炎

(使用上の注意)
(アルツ)

1. 一般の注意

- (1) 変形性膝関節症で関節に炎症が著しい場合は、本剤の投与により局所炎症症状の悪化を招くことがあるので、炎症症状を除去してから本剤を投与することが望ましい。
- (2) 本剤の投与により、ときに局所痛があらわれることがあるので、投与後の局所安静を指示するなどの措置を講ずること。
- (3) 関節腔外に漏れると疼痛を起こすおそれがあるので、関節腔内に確実に投与すること。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
(1) 他の薬剤に対して過敏症の既往歴のある患者
(2) 肝障害又はその既往歴のある患者
4. 副作用(まれに:0.1%未満、ときに:0.1%~5%未満、副詞なし:5%以上又は頻度不明)

(1) 重大な副作用

ショック:まれにショック症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

- 1) 過敏症:まれに蕁麻疹等の発疹、痒痒感等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合は投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) 投与関節:ときに疼痛(主に投与後の一過性の疼痛)、腫脹、まれに水腫、発赤、熱感、局所の重さを感じることがある。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので注意すること。

6. 妊婦・授乳婦への投与

- (1) 動物実験(ウサギ)では催奇形性は認められていないが、妊婦における安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には慎重に投与すること。
- (2) 動物実験(ラット)で乳汁中へ移行することが認められているので、本剤投与中は授乳を避けさせること。

7. 小児への投与

小児に対する安全性は確立していないので、やむを得ず投与する場合には慎重に投与すること。

8. 適用上の注意

(1) 注射時の注意

- 1) 本剤は関節腔内又は肩関節腔内に投与するので、厳重な無菌的操作のもとに行うこと。
- 2) 症状の改善が認められない場合は5回を限度として投与を中止する。
- 3) 関節液の貯留があるときには、必要に応じ穿刺により排液すること。

(2) その他

- 1) 血管内へは投与しないこと。
- 2) 眼科用には使用しないこと。
- 3) 本剤は粘稠なため、18~20G程度の太目の注射針を用いて注射筒に吸引し、22~23G程度の注射針を用いて投与することが望ましい。
- 4) 本剤は粘稠なため、アンプルの頭部に注射液が付着することがあるので、アンプルを振り、付着した注射液をアンプルの底部に流下させ、ゆっくりと注射筒へ吸入すること。
- 5) 本剤は、ワンポイントアンプルであるが、異物の混入を避けるため、カット部をエタノール綿等で清拭してからカットすることが望ましい。
- 6) 本剤は、殺菌消毒剤である塩化ベンザルコニウム等の第4級アンモニウム塩及びクロルヘキシジンにより沈殿を生じることがあるので十分注意すること。

(アルツディスポ)

(適用上の注意②-②)までの使用上の注意はアルツと同じです。)

8. 適用上の注意

(2) その他

- 3) 本剤は粘稠なため、22~23G程度の注射針を用いることが望ましい。
- 4) 本剤の使用は1回限りとし、開封後は速やかに使用し、使用後は廃棄すること。
- 5) 本剤は、殺菌消毒剤である塩化ベンザルコニウム等の第4級アンモニウム塩及びクロルヘキシジンにより沈殿を生じることがあるので十分注意すること。

用法・用量、その他の詳細は、添付文書をご参照下さい。

(製造元)



生化学工業株式会社
東京都中央区日本橋本町2-1-5



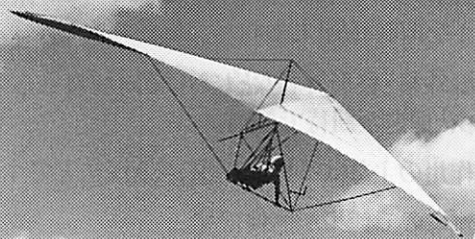
科研製薬株式会社
東京都文京区本駒込2丁目28-8

(資料請求先)

〒103 東京都中央区日本橋本町4-8-14 学術部



鎮痛・消炎に… 快晴気分



鎮痛・抗炎症剤
フェニルプロピオン酸系 Prodrug

ロキソニン[®]錠 細粒

(劇) 指 一般名：ロキソプロフェンナトリウム ■ 健保適用品

効能・効果

- 手術後、外傷後、並びに抜歯後の鎮痛・消炎
- 下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛
慢性関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群

【使用上の注意】

1. 一般的注意

(1)消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。(2)慢性疾患(慢性関節リウマチ、変形性関節症)に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。ア、長期投与する場合には定期的に臨床検査(尿検査、血液検査及び肝機能検査等)を行うこと。また、参事が認められた場合には減量、休薬等の適切な措置を講ずること。イ、薬物療法以外の療法も考慮すること。(3)術後又は外傷に対して用いる場合には、次の事項を考慮すること。ア、炎症、疼痛の程度を考慮し、投与すること。イ、原則として同一の薬剤の長期投与を避けること。(4)患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。(5)感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染による炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に投与すること。(6)他の消炎鎮痛剤との併用は避け

ることが望ましい。(7)高齢者には副作用の発現に特に注意し、必要最少限の使用にとどめるなど慎重に投与すること。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

(1)消化性潰瘍のある患者[プロスタグランジン合成抑制により、胃の血流量が減少し消化性潰瘍が悪化することがある](2)重篤な血液の異常のある患者[血小板機能障害を起こし、悪化するおそれがある](3)重篤な肝障害のある患者[副作用として肝障害が報告されており、悪化するおそれがある](4)重篤な腎障害のある患者[急性腎不全、ネフローゼ症候群等の副作用を発現することがある](5)重篤な心機能不全のある患者[腎のプロスタグランジン合成抑制により浮腫、循環体液体量の増加が起こり、心臓の仕事量が増加するため症状が悪化することがある](6)本剤の成分に過敏症の患者(7)アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者[アスピリン喘息発作を誘発することがある](8)妊娠末期の婦人[「妊婦・授乳婦への投与」の項参照]

3. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

(1)消化性潰瘍の既往歴のある患者[潰瘍を再発させることがある](2)血液の異常又はその既往歴のある患者[溶血性貧血等の副作用が起こりやすくなる](3)肝障害又はその既往歴のある患者[肝障害が悪化又は再発させることがある](4)腎障害又はその既往歴のある患者[浮腫、蛋白尿、血清クレアチニン上昇等の副作用が起こることがある](5)心機能障害のある患者[「禁忌」の項参照](6)過敏症の既往歴のある患者(7)気管支喘息の患者[病態を悪化させることがある](8)高齢者[「高齢者への投与」の項参照]

4. 相互作用

併用に注意すること
(1)クマリン系抗凝固剤(ワルファリン等)、スルホニル尿素系血糖降下剤(トルブタミド等)[これらの作用が増強されることがあるので減量するなど注意すること](2)ニューキノロン系抗菌剤(エノキサシン等)[痙攣を起こすおそれがある]

5. 副作用(まれに:0.1%未満、ときに:0.1%~5%未満、副詞なし:5%以上又は頻度不明)

(1)重大な副作用
1)ショック:まれにショックを起こすことがある

ので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(2)溶血性貧血:まれに溶血性貧血があらわれることがある。(3)皮膚粘膜眼症候群:まれに皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(4)急性腎不全、ネフローゼ症候群:まれに急性腎不全、ネフローゼ症候群があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2)重大な副作用(類案)

再生不良性貧血:他の非ステロイド性消炎鎮痛剤で、再生不良性貧血があらわれるとの報告がある。

●用法・用量、その他の使用上の注意は添付文書をご覧ください。



資料請求先

三共株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町3-5-1

新発売

薬価新収載



自己血貯血に週1回皮下投与。

採血前投与 も可能です



—ヒト エリスロポエチン製剤—

エスポー® 皮下用

6000・9000・12000・24000

(劇)(指)(要指) 一般名: エポエチンアルファ(遺伝子組換え)

1. 週1回の皮下注により採血時のヘモグロビン濃度低下を抑制・防止します。
2. 心臓外科・整形外科などにおける同種血輸血の減少と回避が期待できます。
3. 副作用の主なもの、は、血圧上昇、頭痛などです。
4. 液剤なので使用が簡便です。

【効能・効果】一抜粋—

1. 貯血量が800ml以上で1週間以上の貯血期間を予定する手術施行患者の自己血貯血

【使用上の注意】一抜粋—

1 一般的注意

＜貯血量が800ml以上で1週間以上の貯血期間を予定する手術施行患者の自己血貯血＞

(1) 本剤使用時の注意

1) 本剤の投与は手術施行予定患者の中で貯血式自己血輸血施行例を対象とすること。なお、骨髓機能障害を伴う疾患における自己血貯血の場合には、本剤の効果及び安全性が確認されていないため投与しないこと。2) ショック等の反応を予測するため十分な問診をすること。なお、投与開始時あるいは休薬後の初回投与時には、本剤の少量を皮内に注射し、異常反応の発現しないことを確認後、全量を投与することが望ましい。3) 本剤は安定剤としてゼラチン加水分解物を含有している。ゼラチン含有製剤の投与により、ショック、アナフィラキシー様症状(蕁麻疹、呼吸困難、口唇浮腫、喉頭浮腫等)があらわれたとの報告があるので、問診を十分に行い、投与後は観察を十分に行うこと。4) 本剤投与中はヘモグロビン濃度あるいはヘマトクリット値を定期的に観察し、必要以上の造血(ヘモグロビン濃度で14g/dl以上、あるいはヘマトクリット値で42%以上を目安とする)にならないように十分注意すること。必要以上の造血を認めた場合は休薬又は採血するなどの適切な処置をとること。5) 本剤の効果発現には鉄の存在が重要であり、鉄欠乏時には鉄剤の投与を行うこと。

(2) 貯血式自己血輸血に伴う一般的注意

1) 術前貯血式自己血輸血の対象は、その施設の従来の経験あるいは記録等より輸血を施行することが確実と予想される患者に限ること。2) 採血に先立って患者に貯血式自己血輸血について

十分説明するとともに、その趣旨と採血血液の不使用时の処分等につき患者の同意を得ること。3) 自己血採血は、ヘモグロビン濃度が11g/dl(ヘマトクリット値33%)未満では施行しないことが望ましい。4) 採血は1週間前後の間隔をもって行い、採血量は1回400mlを上限とし、患者の年齢、体重、採血時の血液検査所見及び血圧、脈拍数等を考慮して決定すること。5) 自己血採血時には採血を行う皮膚部位をポビドンヨード液等で十分に消毒し、無菌性を保つこと。6) 最終採血は血漿蛋白量の回復期間を考慮し手術前3日以内は避けることが望ましい。7) 「塩化ビニル樹脂製血液セット基準(昭和40年9月28日厚生省告示第448号)」の規格に適合し、「生物学的製剤基準: 人全血液」に規定された所定量の血液保存液(CPD液等)を注入した採血セット等を用いて採血し、閉鎖回路を無菌的に保ちながら保存すること。8) 血液保存容器には自己血であることを明記するとともに、氏名、採血年月日、ABO式血液型の別等を表示しておくこと。9) 採血後の保存血液は温度記録計の設置されている保冷庫(血液保存庫)中で4~6℃で保管し、血液の返血は保存血液の有効期限内に行うこと。10) 保存血液の返血は、患者本人の血液であることを十分確認してから施行すること。また、外観上異常を認めた場合は使用しないこと。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

本剤又は他のエリスロポエチン製剤に過敏症の患者

3. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

(1) 心筋梗塞、肺梗塞、脳梗塞等の患者、又はそれらの既往歴を有し血栓塞栓症を起こすおそれのある患者[本剤投与により血液粘稠度が上昇すると

の報告があり、血栓塞栓症を増悪あるいは誘発するおそれがある。また、特に自己血貯血に使用する場合には、術後は一般に血液凝固能が亢進するおそれがあるので観察を十分に行うこと。](2) 高血圧症の患者[本剤投与により血圧上昇を認める場合があり、また、高血圧性脳症があらわれることがある。](3) 薬物過敏症の既往歴のある患者 (4) アレルギー素因のある患者 (5) ゼラチン含有製剤又はゼラチン含有の食品に対して、ショック、アナフィラキシー様症状(蕁麻疹、呼吸困難、口唇浮腫、喉頭浮腫等)等の過敏症の既往歴のある患者

4. 副作用(まれに: 0.1%未満、ときに: 0.1~5%未満、副詞なし: 5%以上又は頻度不明)

(1) 重大な副作用

1) ショック まれにショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。2) 高血圧性脳症 急激な血圧上昇により、頭痛、意識障害、痙攣等を示す高血圧性脳症があらわれ、脳出血に至る場合があるので、血圧、ヘマトクリット値等の推移に十分注意しながら投与すること。

用法・用量及び上記以外の使用上の注意は添付文書をご覧ください。又、腎性貧血の用法・用量及び使用上の注意は添付文書をご覧ください。

販売元・資料請求先

三井株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町3-5-1

製造元

麒麟麦酒株式会社

〒104 東京都中央区新川2-10-1

痛みから 笑顔へ Free From Pain

非ステロイド性鎮痛・消炎剤

薬価基準収載



- 【組成】 ペオン錠80は、1錠中にザルトプロフェンを80mg含有する白色のフィルムコーティング錠である。
- 【効能・効果】 下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛
慢性関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群
手術後、外傷後並びに抜歯後の消炎・鎮痛
- 【用法・用量】 通常、成人に1回1錠（ザルトプロフェンとして80mg）を1日3回経口投与する。
頓用の場合は、1回1～2錠（ザルトプロフェンとして80mg～160mg）を経口投与する。

使用上の注意

1. 一般的注意

- (1) 消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。
- (2) 慢性疾患（慢性関節リウマチ、変形性関節症等）に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。
 - 1) 長期投与する場合には定期的に臨床検査（尿検査、血液検査及び肝機能検査等）を行うこと。また、異常が認められた場合には減量、休薬等の適切な措置を講ずること。
 - 2) 薬物療法以外の療法も考慮すること。
- (3) 急性疾患に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。
 - 1) 急性炎症、疼痛及び発熱の程度を考慮し、投与すること。
 - 2) 原則として同一の薬剤の長期投与を避けること。
 - 3) 原因療法があればこれを行うこと。
- (4) 患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。
- (5) 感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染による炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に投与すること。
- (6) 他の消炎鎮痛剤との併用は避けることが望ましい。
- (7) 高齢者及び小児には副作用の発現に特に注意し、必要最小限の使用にとどめるなど慎重に投与すること。

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

- (1) 消化性潰瘍のある患者
- (2) 重篤な血液の異常のある患者
- (3) 重篤な肝障害のある患者
- (4) 重篤な腎障害のある患者
- (5) 重篤な心機能不全のある患者
- (6) 本剤に過敏症の患者
- (7) アスピリン喘息又はその既往歴のある患者
- (8) 授乳中の婦人

3. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 消化性潰瘍の既往歴のある患者
- (2) 血液の異常又はその既往歴のある患者
- (3) 肝障害又はその既往歴のある患者
- (4) 腎障害又はその既往歴のある患者
- (5) 心機能障害のある患者
- (6) 過敏症の既往歴のある患者
- (7) 気管支喘息のある患者
- (8) 高齢者

4. 相互作用

併用に注意すること

- (1) ビリドンカルボン酸系抗菌剤（エノキサシン等）[痙攣を誘発することがあるので、用量を調節するなど注意すること]
- (2) クマリン系抗凝固剤（ワルファリン）、スルホニル尿素系血糖降下剤（トルブタミド等）[これらの作用を増強するおそれがあるので、用量を調節するなど注意すること]
- (3) チアジド系利尿剤[他の非ステロイド性消炎鎮痛剤で、チアジド系利尿剤の作用を減弱するとの報告がある]
- (4) リチウム製剤[他の非ステロイド性消炎鎮痛剤で、リチウム製剤の作用を増強するとの報告がある]

※その他の使用上の注意等の詳細につきましては、添付文書をご参照ください。

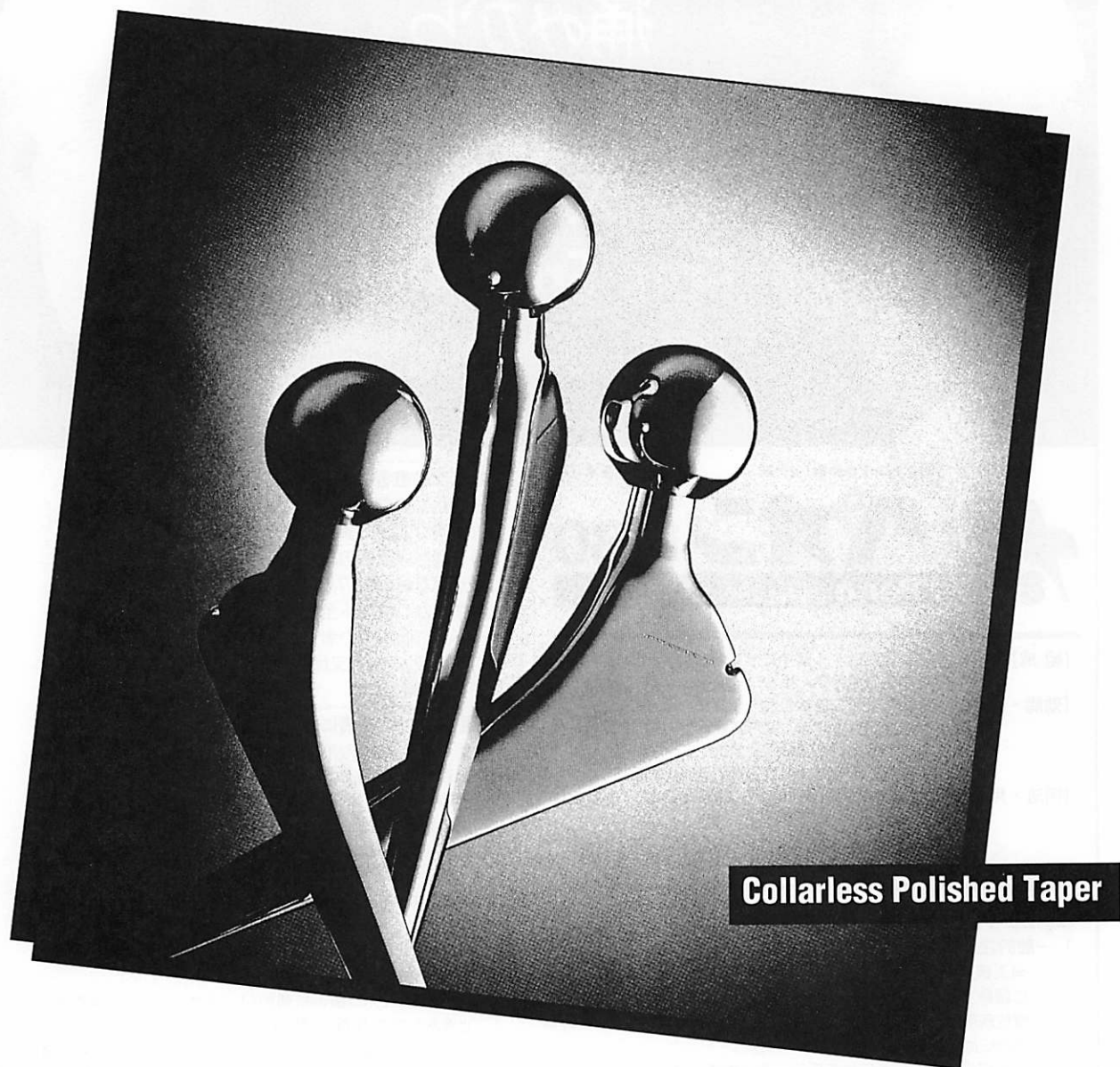


製造発売元〔資料請求先〕

ゼリア新薬工業株式会社 医薬部
東京都中央区日本橋小舟町10-11

The CPT[®] CPT リビジョンヒップシステム

Revision Hip System



Collarless Polished Taper



ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社
ジンマー事業部

本 部	〒163-13 東京都新宿区西新宿6丁目5番1号 (新宿アイランドタワー27F)	TEL 03-5323-8500(代表)
北海道営業所	〒060 札幌市北区北7条西4丁目12番地 (ニッセイMKビル)	TEL 011-716-4221(代表)
東北営業所	〒980 仙台市青葉区上杉1丁目16番3号 (畜連ビル)	TEL 022-263-3771(代表)
北関東営業所	〒330 大宮市大門町3丁目55番地 (住友生命大宮ビル)	TEL 048-644-7288(代表)
東京営業所	〒113 東京都文京区湯島1丁目7番12号 (千代田御茶の水ビル)	TEL 03-3816-1234(代表)
神奈川営業所	〒222 横浜市港北区新横浜3丁目23番3号 (新横浜東武AKビル)	TEL 045-472-2190(代表)
静岡営業所	〒412 静岡県御殿場市中畑1656番地の1	TEL 0550-89-8511(代表)
名古屋営業所	〒461 名古屋市東区東桜2丁目13番30号 (トヨペットニッセイビル)	TEL 052-937-9621(代表)
北陸営業所	〒920 金沢市北安江1丁目3番24号 (ピア金沢)	TEL 0762-63-6703(代表)
関西営業所	〒532 大阪市淀川区宮原3丁目5番36号 (新大阪第2森ビル)	TEL 06-394-1230(代表)
岡山営業所	〒700 岡山市幸町8番29号 (三井生命岡山ビル)	TEL 086-233-2205(代表)
広島営業所	〒732 広島市南区段原南2丁目3番19号 (ナカイビル)	TEL 082-263-6545(代表)
九州営業所	〒812 福岡市博多区博多駅前2丁目17番1号 (ヒロカネビル)	TEL 092-474-1282(代表)
御殿場工場	〒412 静岡県御殿場市中畑1656番地の1	TEL 0550-89-8500(大代表)



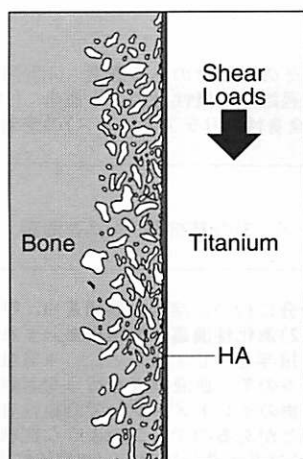
PROARC HA

Hydroxyapatite-coating on "PROARC"

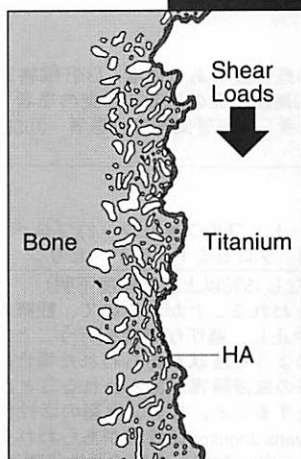
京セラは、シールド・アーク溶射法による純チタンの粗面皮膜(**PROARC**)の上に、フレイム溶射法によりHAをコーティングした**PROARC HA**を、人工関節用HAコーティングとして提案します。

■ 特長

- HAコート層がPROARCの粗面凹凸に術後早期に骨を伝導し、PROARCの初期固定性が向上することが期待されます。
- PROARC面上にHAコートを行っているため、スムーズ面へのHAコートに比べHAコート層の保持力(定着性)が高く、人工関節の骨への打ち込みの際懸念されるHAコート層の剥離等に対する抵抗性が高いと考えられます。
- 骨癒合完了後は、内部欠陥の少ない純チタンの粗面皮膜であるPROARCにより、骨との強固で安定した固定性が維持されるものと考えられます。



スムーズ面へのHAコート断面模式図



PROARC HA断面模式図

PerFix HA STEM
& AMS HA CUP

承認番号: (07B) 第0357号
(07B) 第0359号

京セラ株式会社

バイオセラム事業部

〒600 京都市下京区烏丸通仏光寺下ル
大政所町680 (住友生命丸太通ビル2F)
TEL075-344-8233 (代表)
FAX075-344-8258

本社 〒607 京都市山科区東野北井ノ上町5-22

札幌営業所 〒060 札幌市中央区北一条西7-3 (北一条第一生命ビル)

東北営業所 〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 (住友生命青葉通ビル)

東京営業所 〒150 東京都渋谷区神宮前6-27-8 (京セラ原宿ビル2F)

名古屋営業所 〒460 名古屋市中区錦3-4-6 (東海銀行第一生命ビルディング10F)

TEL011-222-7340 (代表)

TEL022-223-7222 (代表)

TEL03-3797-4617 (代表)

TEL052-962-7420 (代表)

京都営業所 〒600 京都市下京区烏丸通仏光寺下ル大政所町680 (住友生命丸太通ビル2F) TEL075-344-8233 (代表)

大阪営業所 〒532 大阪市淀川区宮前3-5-24 (新大阪第一生命ビル3F) TEL 06-350-2246 (代表)

広島営業所 〒730 広島市中区福町13-11 (明治生命広島福町ビル9F) TEL082-227-6300 (代表)

九州営業所 〒812 福岡市博多区博多駅南2-9-11 (山善福岡ビル) TEL092-472-6936 (代表)



Inflammation Free

～炎症からの解放～

組織活性型鎮痛・抗炎症剤

(薬価基準収載)

【特許】**インフリー[®]S**カプセル200mg

【特許】**インフリー[®]**カプセル100mg

(インドメタシン ファルネシル製剤)

使用上の注意

1. 一般的注意

(1)消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。(2)患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。本剤の活性代謝物のインドメタシンで過度の体温下降、虚脱、四肢冷却等の症状が報告されているので、特に高熱を伴う高齢者又は消耗性疾患の患者においては、投与後の患者の状態に十分注意すること。(3)慢性疾患(慢性関節リウマチ、変形性関節症等)に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。1)長期投与する場合には定期的に臨床検査(尿検査、血液検査、肝機能検査及び眼科的検査等)を行うこと。また、異常が認められた場合には減量、休薬等の適切な措置を講ずること。2)薬物療法以外の療法も考慮すること。(4)感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染による炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤を併用し、観察を十分にに行い慎重に投与すること。(5)他の消炎鎮痛剤との併用は避けることが望ましい。(6)眠気、めまいがあらわれることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等、危険を伴う機械の操作には従事させないように注意すること。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

(1)消化性潰瘍のある患者 (2)重篤な血液の異常のある患者 (3)重篤な肝障害のある患者 (4)重篤な腎障害のある患者 (5)重篤な心機能不全のある患者 (6)重篤な高血圧症の患者 (7)重篤な肺炎の患者 (8)本剤又はインドメタシン、サリチル酸系化合物(アスピリン等)に過敏症の患者 (9)アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者 (10)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 (11)ジフルニサル、トリウムテレンを投与中の患者

3. 原則禁忌(次の患者には投与しないことを原則とするが、他剤が無効又は使用できない慢性関節リウマチに対して投与する場合には慎重に投与すること)

小児

4. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

(1)消化性潰瘍の既往歴のある患者 (2)血液の異常又はその既往歴のある患者 (3)肝障害又はその既往歴のある患者 (4)腎障害又はその既往歴のある患者 (5)心機能障害のある患者 (6)高血圧症の患者(7)肺炎の患者 (8)過敏症の既往歴のある患者 (9)てんかん、パーキンソン症候群等の中枢神経系疾患のある患者 (10)気管支喘息の患者 (11)SLE(全身性エリテマトーデス)の患者 (12)潰瘍性大腸炎の患者 (13)クローン氏病の患者 (14)高齢者

5. 相互作用

(1)併用しないこと/1)ジフルニサル 2)トリウムテレン

(2)併用に注意すること/1)リチウム製剤、メトトレキサート、ワルファリン 2)プロベネシド 3)Ca拮抗剤 4)β遮断剤、アンジオテンシン変換酵素阻害剤、チアジド系利尿・降圧剤、フロセミド 5)アスピリン

※6. 副作用(まれに:0.1%未満、ときに:0.1~5%未満、副詞なし:5%以上又は頻度不明)

(1)重大な副作用 1)ショック/まれにショック症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、冷汗、顔面蒼白、呼吸困難、血圧低下等の症状が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。2)消化性潰瘍、胃腸出血/まれに消化性潰瘍、胃腸出血があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。※3)血液障害/まれに再生不良性貧血、白血球減少、血小板減少等の血液障害があらわれることがあるので、血液検査を行うなど観察を十分行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止すること。なお、本剤の活性代謝物のインドメタシンで溶血性貧血があらわれたとの報告がある。4)皮膚障害/まれにStevens-Johnson症候群があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。なお、本剤の活性代謝物のインドメタシンで、Lyell症候群(中毒性表皮壊死症)があらわれたとの報告がある。5)喘息発作/まれに喘息発作等の急性呼吸障害があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。※6)腎障害/まれに急性腎不全、ネフローゼ症候群等の腎障害、高カリウム血症があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

●その他の使用上の注意および効能・効果、用法・用量については添付文書をご参照ください。また使用上の注意の改訂に十分ご留意ください。 ※1995年10月改訂

hke
ヒューマン・ヘルスケア企業



エーザイ株式会社

〒112-88 東京都文京区小石川4-6-10

資料請求先: 医薬事業部インフリー係まで。

S.D.I.C.

SOFAMOR DANEK INTERBODY FUSION CAGE

ソファモア ダネック インターボディーフュージョン ケージ

InterBodyFusion Cage

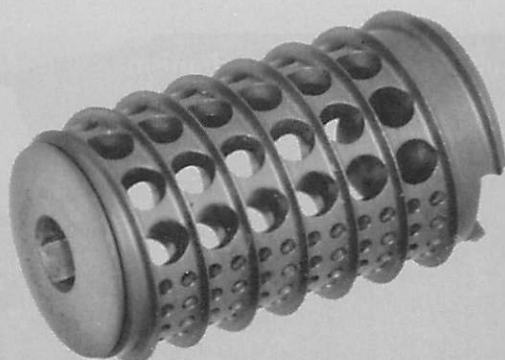
ソファモア ダネック インターボディーフュージョン ケージ (S.D.I.C.) は、円筒型中空構造ケージで内部へ自家骨を充填し、特殊スレッドで上下の椎体へ確実にねじ込まれ抜群の初期固定と長期的な椎間高の維持を約束します。

Reliability

S.D.I.C.は、同材質のエンドキャップを有し骨充填を挿入前に行うため、骨充填が確実にできます。また、同材質のエンドキャップは、支柱的な働きをし、ケージ全体の強度を確保します。

MRI/CT Compatible

生体親和性に優れ、耐久性、耐腐食性に優れたチタン合金(Ti-6Al-4V)を採用し、術後のフォローアップも行えます。



Wide Bone Contact Hole

広いコンタクトエリアを持ち、確実な骨融合を約束します。

Safty

少ない手術器械で安全、確実な手術が可能です。

Self Tap Thread

タップを必要とせず、固定力に優れた特殊スレッドデザインです。

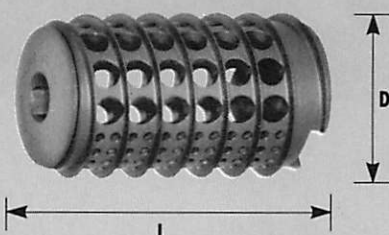
End Cap

ケージ全体の強度を確保します。エンドキャップは椎体前方に位置しますので、後方へのバックアウトの心配はありません。

IMPLANT

カタログNo.	直径 (D)	長さ (L)
※892-100	10	20
※892-105	10	25
892-120	12	20
892-125	12	25
892-140	14	20
892-145	14	25
※892-166	16	26

※印はオプションです



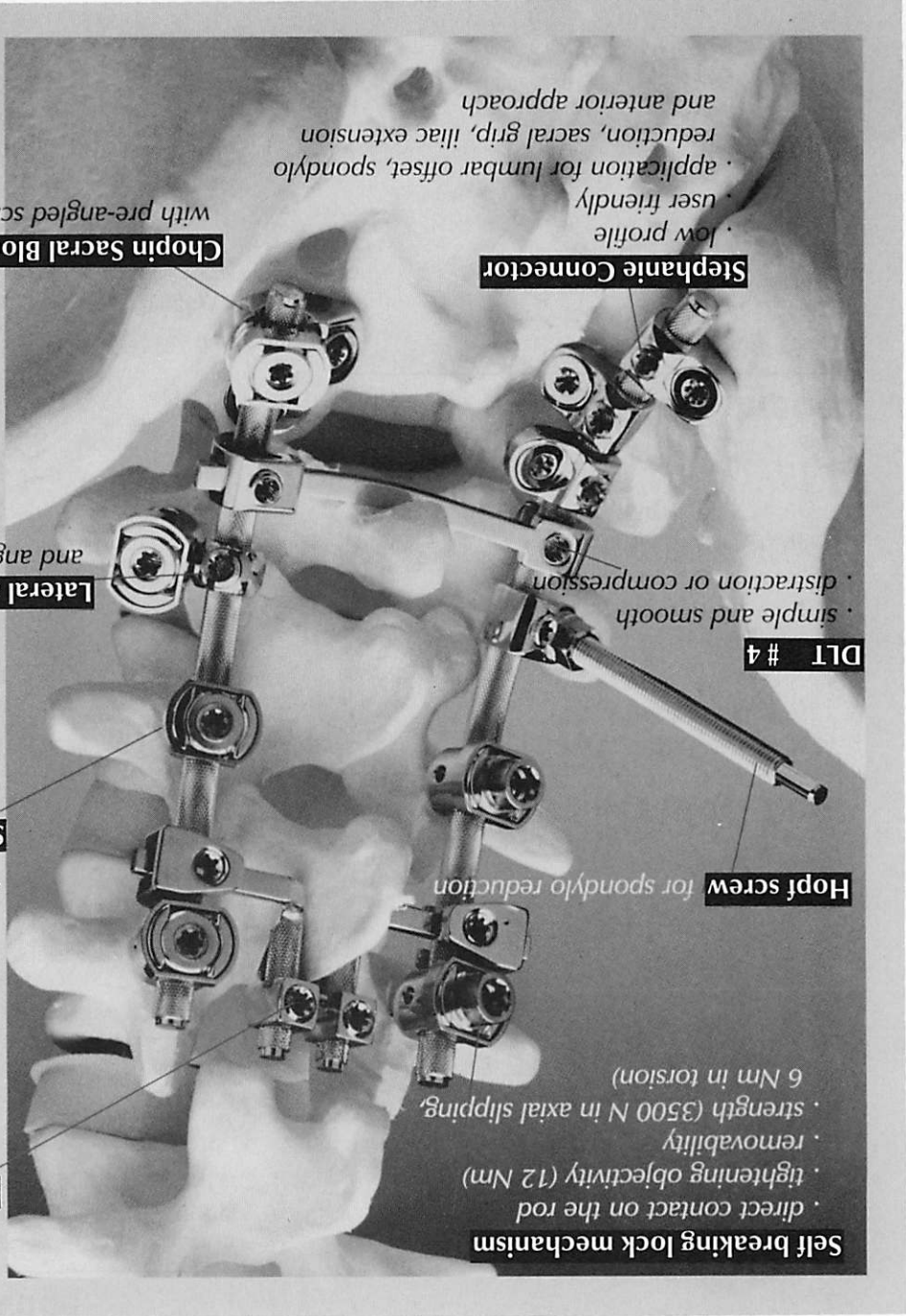
KOBAYASHI
SOFAMOR
DANEK
THE SPINE SPECIALIST





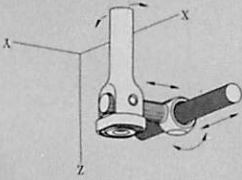
THE EVOLUTION OF THE COMPACT CD LOW BACK

Titanium and Stainless Steel



Implants for thoracic extension.

KOBAYASHI
SOFAMOR
DANERK
THE SPINE SPECIALIST



SPINE System スパインシステム



総発売元

より良い医療のお手伝いを

*医学の発展に奉仕する



昭和医科工業株式会社

SHOWA IKA KOHGYO CO., LTD.

〒105 東京都港区虎ノ門四丁目3番20号
神谷町森ビル4F

〒542 大阪市中央区南船場二丁目10番30号
豊城ビル8F

〒465 名古屋市名東区本郷一丁目1番地

豊橋デリバリーセンター

〒441 愛知県豊橋市羽根井西町8番地7

PHONE 03-5401-5340 (代)
FAX 03-5401-5350

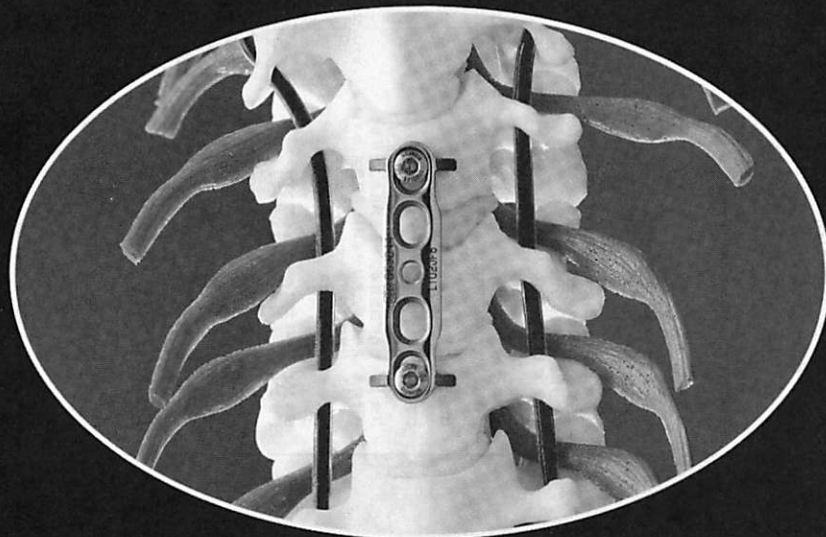
PHONE 06-244-2301 (代)
FAX 06-244-1350

PHONE 052-777-2865 (代)
FAX 052-776-5150

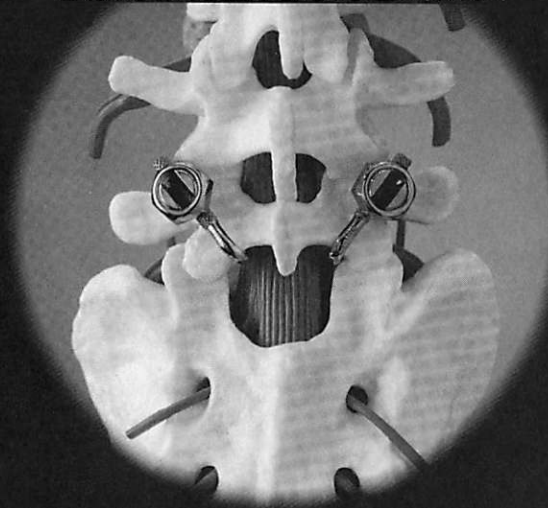
PHONE 0532-32-1543 (代)
FAX 0532-32-1106



サービカルプレート



Wエッジ形スパイクとセルフロックングスクリューの二重固定
容易な手按で強固な固定が安全に行えます



Anti Free Radical & PG Inducer



ムコスタの特徴

1. 胃粘膜のPG増加作用・フリーラジカル抑制作用を併せ持つ初めての胃炎・胃潰瘍治療剤です(ヒト、ラット、in vitro)。
2. NSAIDs*や *Helicobacter pylori* (in vitro) などによる胃粘膜傷害を抑制します。
3. QOUH**を高め、再発・再燃を抑制します(ラット)。
4. 胃炎***、特にびらん・出血に優れた効果を示します。
5. 副作用発現率は0.69%(43/6,275)でした。主な副作用は、便秘(6件)、GPT上昇(5件)等でした。

* NSAIDs: non-steroidal anti-inflammatory drugs(非ステロイド性抗炎症薬)
 ** QOUH: Quality of ulcer healing(潰瘍治癒の質)
 *** 胃 炎: 急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期

〔効能・効果〕

- ・胃潰瘍
- ・下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善
急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期

〔用法・用量〕

- ・胃潰瘍
通常、成人には1回1錠(レバミピドとして100mg)を1日3回、朝、夕及び就寝前に経口投与する。
- ・下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善
急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期
通常、成人には1回1錠(レバミピドとして100mg)を1日3回経口投与する。

〔使用上の注意〕— 抜粋 —

- 副作用(まれに:0.1%未満、ときに:0.1~5%未満、副作用なし:5%以上又は頻度不明)
- (1)過敏症:まれに発疹、痒疹、薬疹様皮膚等の過敏症状があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止すること。
 - (2)消化器:口渇、また、まれに便秘、腹部膨満感、下痢、嘔気・嘔吐、胸やけ、腹痛、げっぷ等があらわれることがある。
 - (3)肝 臓:まれに、GOT、GPT、γ-GTP、ALPの上昇等の肝機能障害があらわれることがある。
 - (4)血 液:まれに白血球減少があらわれることがある。
 - (5)その他:乳腺腫脹、乳汁分泌誘発、月経異常、めまい、また、まれにBUN上昇、浮腫、咽頭部異物感等があらわれることがある。

※その他の使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。

胃炎・胃潰瘍治療剤

薬価基準収載

® **ムコスタ錠 100**

Mucosta® tablets

レバミピド製剤



製造発売元

大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先

大塚製薬株式会社 学術部
東京都千代田区神田司町2-2
大塚製薬神田第2ビル

(95.8作成)

健保適用

Hello, Zepolas

経皮吸収型鎮痛・消炎剤

® **ゼポラス**®

フルルビプロフェン貼付剤

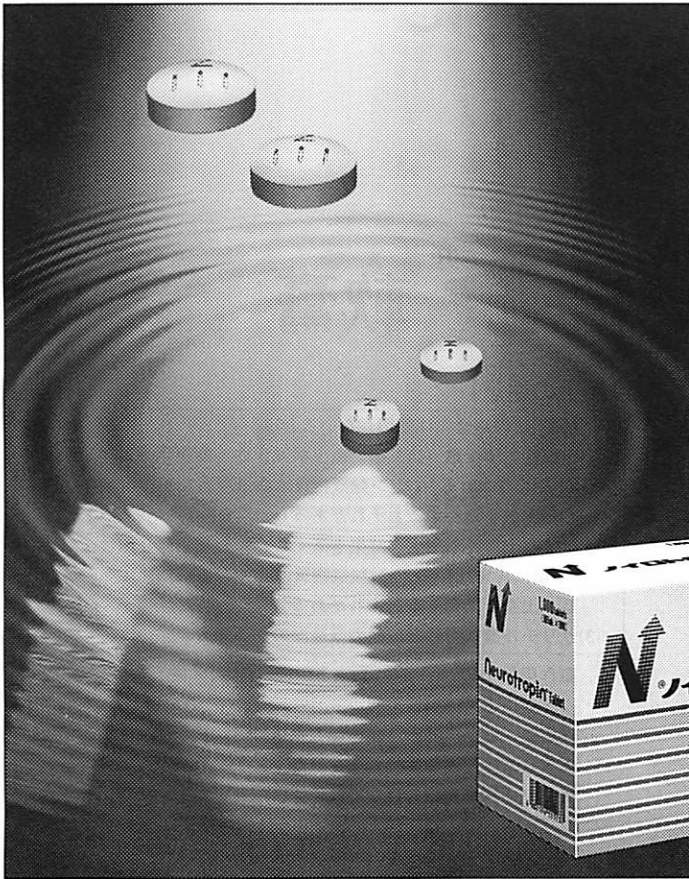
資料請求先



三共製薬株式会社
東京都練馬区豊玉北2-3-1

次の患者には使用しないこと

- (1) 本剤又は他のフルルビプロフェン製剤に対して過敏症の既往歴のある患者
- (2) アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者



長びく痛みに

④ ノイトロロピン錠

(薬価基準収載)

効能・効果 腰痛症、頸肩腕症候群、肩関節周囲炎、変形性関節症

用法・用量 通常、成人1日4錠を朝夕2回に分けて経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

使用上の注意

1. 次の患者には投与しないこと:

本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

2. 副作用

(1)過敏症: ときに発疹、また、まれに蕁麻疹、痒痒等の過敏症状があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止すること。

(2)消化器: ときに胃部不快感、悪心・嘔気、食欲不振、下痢・軟便、胃痛、口渇、腹部膨満感、便秘、口内炎、胃重感、胃部膨満感、腹痛、放屁過多、消化不良、また、まれに胸やけ、胃のたれ感、嘔吐の症状があらわれることがある。

(3)精神神経系: ときに眠気、めまい・ふらつき、頭痛・頭重感の症状があらわれることがある。

(4)その他: ときに全身倦怠感、浮腫、また、まれに熱感、動悸、皮膚感覚の異常等の症状があらわれることがある。

※その他の「使用上の注意」などについては添付文書をご参照ください。

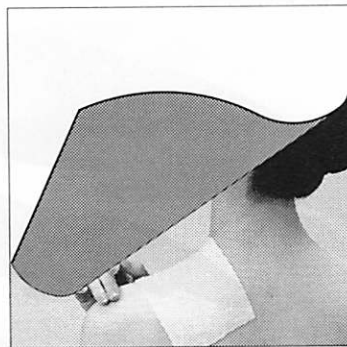
健康を求め、未知に挑戦する——

日本臓器製薬

〒541 大阪市中央区南船場2丁目1番2号 06(233)5441(代)
資料請求先: 日本臓器製薬株式会社 学術部

ニューパップ剤は無臭の時代

●しっとりタイプの無臭性



【製品特性】

1. 香料を含まない無臭性の新しいパップ剤です。
2. 経皮吸収性にすぐれ、強い鎮痛・消炎作用を示します。
3. 粘着性にすぐれ、水分含有量が多いパップ剤です。
4. 副作用発現率は2.8%(966例中27例)で、主な副作用は発赤、痒痒感などいずれも一過性の皮膚症状のみでした。

【効能・効果】

下記疾患並びに症状の鎮痛・消炎

- 変形性関節症 ○肩関節周囲炎 ○腱・腱鞘炎 ○腱周囲炎
- 上腕骨上顆炎(テニス肘等) ○筋肉痛 ○外傷後の腫脹・疼痛

【用法・用量】 1日2回患部に貼付する。

【使用上の注意】

(1)一般的な注意/①消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。

②皮膚の感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に投与すること。

③慢性疾患(変形性関節症等)に対し本剤を用いる場合には薬物療法以外の療法も考慮すること。また、患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。

(2)次の患者には使用しないこと/本剤又は他のフェルビナク製剤に対して過敏症の既往歴のある患者

③副作用/皮膚: ときに痒痒、発赤、発疹等の皮膚炎及び刺激感あらわれることがある。

これらの症状が強い場合は使用を中止すること。

(4)妊婦への投与/妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

(5)小児への投与/小児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

(6)適用上の注意/①損傷皮膚及び粘膜に使用しないこと。

②湿疹又は発疹の部位に使用しないこと。

経皮吸収型鎮痛消炎剤(無臭性)

セルタッチ®

フェルビナク貼付剤 薬価基準収載

Seltouch® Felbinac Pap

製造元 帝國製薬株式会社
〒769-26 香川県大川郡大内町三本松567番地

発売元 日本レダリー株式会社
〒104 東京都中央区京橋一丁目10番3号
(資料請求先・学術部)

販売 武田薬品工業株式会社
〒541 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
1994.4

関節の腫脹・疼痛に

薬価基準収載

経皮複合消炎剤

モビラート® 軟膏

〔効能・効果〕

変形性関節症(深部関節を除く)、関節リウマチによる小関節の腫脹・疼痛の緩解、筋・筋膜性腰痛、肩関節周囲炎、腱・腱鞘・腱周囲炎、外傷後の疼痛・腫脹・血腫

〔用法・用量〕

通常、1日1～数回適量を塗擦又はガーゼ等にのぼして貼付する。症状により密封法を行う。

〔使用上の注意〕

1. 禁忌(次の場合には使用しないこと)

- (1)出血性血液疾患(血友病、血小板減少症、紫斑病等)
〔本剤に含まれるヘパリン類似物質は血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕
- (2)僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される場合
〔本剤に含まれるヘパリン類似物質は血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕
- (3)サリチル酸に対し過敏症の既往歴のある患者

2. 副作用(まれに:0.1%未満、ときに:0.1～5%未満、副詞なし:5%以上又は頻度不明)

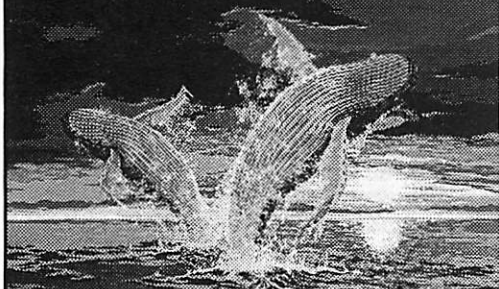
過敏症 ときに発赤、痒疹、また、まれに発疹、皮膚炎、皮膚刺激等の過敏症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

●その他の使用上の注意等については添付文書をご覧ください。

資料請求先 製造 販売  マルホ株式会社
(1995.9作成) 大阪市北区中津1丁目6-24

提携  ルイトポルド・ファルマ社
ドイツ・ミュンヘン

大なるバランス



パワーとやさしさ

〔使用上の注意〕

本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最少限の期間の投与にとどめること

- (1) 一般的注意
ショックがあらわれるおそれがあるので、十分な問診を行うこと
- (2) 次の患者には投与しないこと
本剤の成分によるショックの既往歴のある患者
- (3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること
本剤の成分又はセフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者

<資料請求先>

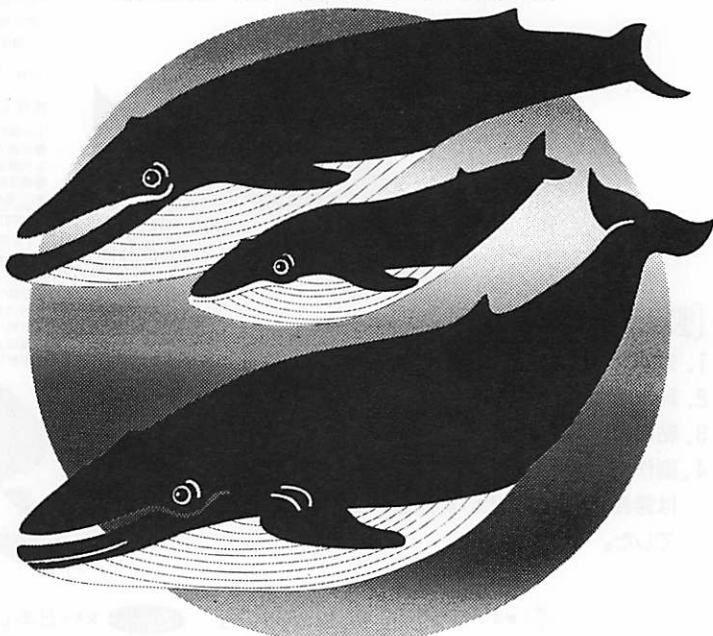
 明治製薬株式会社
104東京都中央区京橋2-4-16

経口用セフェム系抗生物質製剤

メイアクト®

MEI ACT® 錠100・小児用顆粒

日抗基:セフトレンピボキシル錠/粒(略号:CDTR-PI) 薬価基準収載



※使用上の注意の詳細、および効能・効果、用法・用量等につきましては、添付文書等をご参照下さい。

法隆寺域(奈良県斑鳩町)



合成セファロスポリン 指 要指 セファメジン® 筋注用・注射用・2gキット品

〈日抗薬：注射用セファゾリンナトリウム〉 ■健保適用

●ご使用に際しましては
製品添付文書をご参照下さい。



フジサワ
大阪市中央区道修町3-4-7 〒541

資料請求先：藤沢薬品工業株式会社薬事業部

作成年月1995年10月

A42

見直される第一世代。

赤血球をつくる!!

手術施行予定患者における自己血貯血

〔特徴〕 貯血量が800ml以上で1週間以上の貯血期間を予定する手術施行患者の自己血貯血

1. 世界で初めて自己血貯血に承認された遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤です。
2. 自己血採血に伴うヘモグロビン濃度の低下を抑制します。
3. 自己血貯血期間におけるヘモグロビン量を増加させます。
4. 整形外科領域における術中・術後の同種血輸血の節減・回避が認められています。
5. 副作用は517例中18例(3.5%、22件)に発現し、主な副作用として、体熱感・頭痛・頭重感・肝機能障害がみられています。

〔効能・効果〕 貯血量が800ml以上で1週間以上の貯血期間を予定する手術施行患者の自己血貯血

〔使用上の注意〕 一抜粋—

1. 本剤使用時の注意
(1) 本剤の投与は手術施行予定患者の中で貯血式自己血輸血施行例を対象とする。なお、造血機能障害を伴う疾患における自己血貯血の場合には、本剤の効果及び安全性が確認されていないため投与しないこと。
2. 本剤投与中はヘモグロビン濃度あるいはヘマトクリット値を定期的に観察し、過度の上昇(原則としてヘモグロビン濃度で14g/dl以上、ヘマトクリット値で42%以上を目安とする)が起こらないように注意すること。このような症状があらわれた場合には、休業あるいは採血等適切な処置を施すこと。
3. ショック等の反応を予測するため十分な問診をすること。なお、投与開始時あるいは採血後の初回投与時には、本剤の少量で体内反応を行い、異常反応の発現しないことを確認後、全量を投与することが望ましい。
4. GOT、GPTの上昇等の肝機能異常を認めた場合には、本剤投与の中止等適切な処置を施すこと。
5. 本剤の投与効果発現には鉄の存在が重要であり、鉄欠乏時には鉄剤の投与を行うこと。
2. 貯血式自己血輸血に伴う一般的使用上の注意
(1) 術前貯血式自己血輸血の対象は、その施設の従来の経験あるいは記録等より輸血を施行することが確実と予想される患者に限ること。
2. 採血に先立って患者に貯血式自己血輸血について十分説明するとともに、その趣旨と採血血液の不使用の際の処分等につき患者の同意を得ること。
3. 自己血採血は、ヘモグロビン濃度が11g/dl(ヘマトクリット値33%)未満では施行しないことが望ましい。
4. 採血は1週間前後の間隔をもって行い、採血量は1回400mlを上限とし、患者の年齢、体重、採血時の血液検査所見及び血圧、脈拍数等を考慮して決定すること。
5. 自己血採血時には採血を行う皮膚部位をボビドンヨード液等で十分に消毒し、無菌性を保つこと。
6. 最終採血は血漿蛋白量の回復期間を考慮し手術前3日以内は避けることが望ましい。
7. 「塩化ナトリウムリン酸緩衝液セット基準(昭和40年9月28日厚生省告示第448号)」の規格に適合し、「生物学的製剤基準：人全血液」に規定された所定量の血液保存液(CPD液等)を注入した採血セット等を用いて採血し、閉

- 鎖回路を無菌的に保ちながら保存すること。
- 血液保存容器には自己血であることを明記するとともに、氏名、採血年月日、ABO式血液型の別等を表示しておくこと。
9. 採血後の保存血液は温度記録計の設置されている保冷庫(血液保存庫)中で4~6℃で保管し、血液の返血は保存血液の有効期限内に行うこと。
10. 保存血液の返血は、患者本人の血液であることを十分確認してから施行すること。また、外観上異常を認めた場合は使用しないこと。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)
本剤又は他のエリスロポエチン製剤に過敏症の患者

3. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
(1) 心筋梗塞、肺梗塞、脳梗塞等の患者、又はそれらの既往歴を有し血栓性症を起こすおそれのある患者〔本剤投与により血液粘度が増加するおそれがあり、血栓性症を増悪するおそれがある。また、特に自己血貯血に使用する場合に、稀後一般に血液凝固能が亢進するおそれがあるため観察を十分にすること〕。
- (2) 高血圧症の患者〔本剤投与により血圧上昇を認める場合があり、また、高血圧性脳症があらわれることがある〕。
- (3) 薬物過敏症の既往歴のある患者。
- (4) アレルギー薬のある患者。
4. 副作用(まれに：0.1%未満、ときに：0.1~5%未満、副作用なし：5%以上又は頻度不明)

- (1) 重大な副作用
(1) ショック：まれにショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- (2) 高血圧性脳症：急激な血圧上昇により、頭痛、悪心嘔吐、痙攣等を示す高血圧性脳症があらわれ、脳出血に至る場合があるため、血圧、ヘマトクリット値等の推移に十分注意しながら投与すること。

8. 適用上の注意
調製時
(1) 本剤を投与する場合は他剤との混注を行わないこと。

※用法・用量、その他の使用上の注意、取扱い上の注意等については添付文書をご参照下さい。
なお、効能・効果、透析導入前の腎性貧血、透析施行中の腎性貧血(エポジン注6000は除く)の「使用上の注意」等についても添付文書をご参照下さい。



遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤

薬価基準収載

エポジン® 注
EPOGEN Injection 一般名：エポエチン ベータ(遺伝子組換え)

1500
3000
6000

CHUGAI 中外製薬

(資料請求先)
〒104 東京都中央区京橋2-1-9

CEP5153

CIBA—GEIGY

徐放性鎮痛・抗炎症剤

ボルタレン[®] SRカプセル

ジクロフェナクナトリウムカプセル

鎮痛・解熱・抗炎症剤

ボルタレンサボ[®]

ジクロフェナクナトリウム坐剤

12.5mg
25mg
50mg

鎮痛・抗炎症剤

ボルタレン錠

ジクロフェナクナトリウム錠

®：登録商標

■薬価基準収載

※使用上の注意等詳細につきましては製品の添付文書をご覧ください。

製造販売 日本チバガイギー株式会社 兵庫県宝塚市美幸町10番66号

※資料は日本チバガイギーの医薬情報担当者にご請求下さい。

新発売

注射用セフェム系抗生物質製剤

ファーストシン[®]

静注用 0.5g・1g

キット S1g・キット G1g

(日抗基：注射用塩酸セフォゾプラン)

■効能・効果、用法・用量、使用上の注意(禁忌)等の詳細については、
添付文書をご参照ください。

■薬価基準：収載

FIRSTCIN[®] 略号：**CZOP**

製造・発売元 (資料請求先) **武田薬品工業株式会社**
〒541 大阪市中央区道修町四丁目1番1号

提携

Legato

日本レダリー株式会社
〒104 東京都中央区京橋一丁目10番3号

(1995・8・FIRB52-1)

DIRECT ACTION ON STOMACH MUCOSA

胃粘膜に直接作用



胃粘膜防御機構増強 胃炎・胃潰瘍治療剤

⑩ **ウルグート®**
カプセル

塩酸ベネキサート ベータデクスカプセル

■薬価基準収載

〔資料請求先〕塩野義製薬株式会社 製品部 〒553 大阪市福島区鷺洲5丁目12-4

'95.11.作成A42

■効能・効果 ○下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善 急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期 ○胃潰瘍

■用法・用量 通常、成人には塩酸ベネキサート ベータデクスとして、1回400mg(2カプセル)を1日2回朝食後及び就寝前に経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

■使用上の注意 ①一般的な注意 胃炎に対して胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善がみられない場合、長期にわたって漫然と使用すべきでない。

②禁忌(次の患者には投与しないこと) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人〔⑥妊婦への投与〕の項参照

③慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)血栓のある患者(脳血栓、心筋梗塞、血栓性静脈炎等)〔*in vitro*で抗プラスミン作用が報告されている。〕

(2)消費性凝固障害のある患者〔*in vitro*で抗プラスミン作用が報告されている。〕 ④副作用(まれに：0.1%未満、ときに：0.1～5%未満、副詞なし：5%以上又は頻度不明) (1)消化器

まれに口渇、悪心・嘔吐、腹部不快感・膨満感、また、ときに便秘、下痢があらわれることがある。(2)肝臓 ときにGOT、GPTが軽度上昇することがある。(3)皮膚 ときに痒痒感、発疹があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合は投与を中止すること。

(4)精神神経系 ときに頭痛、頭重感があらわれることがある。(5)その他 まれに浮腫、また、ときに胸部絞扼感、浮遊感、困がうく感じの症状があらわれることがある。

⑤高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので慎重に投与すること。⑥妊婦への投与 ラット(Wistar系)、ウサギにおける器官形成期投与試験において催奇形作用の報告はないが、ラット(SD系)で臨床用量の150倍(2000mg/kg)投与により催奇形作用が報告されているので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。

⑦小児への投与 小児に対する安全性は確立していない。(使用経験がない。)



シオノギ製薬

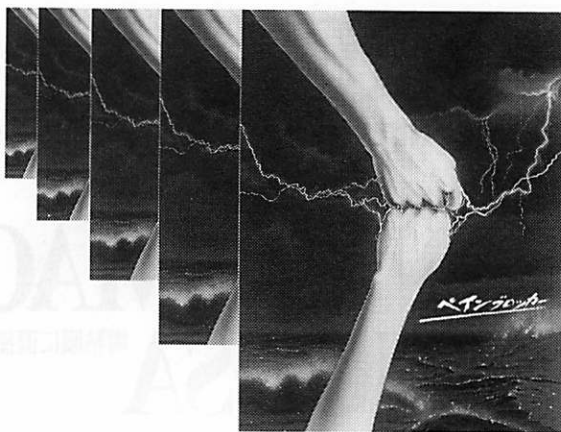
大阪市中央区道修町 3-1-8 〒541



鎮痛・抗炎症剤 (薬価基準収載)
(チアプロフェン酸製剤)

スルガム®

錠(100mg)・200mg錠



●効能・効果

下記疾患ならびに症状の消炎・鎮痛

慢性関節リウマチ、変形性関節症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、腰痛症

下記疾患の解熱・鎮痛

急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)

手術後および外傷後の消炎・鎮痛

●用法・用量

慢性関節リウマチ、変形性関節症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、腰痛症、手術後及び外傷後の消炎・鎮痛の場合

錠：通常、成人1回2錠(チアプロフェン酸として200mg)、1日3回経口投与する。

頓用の場合は1回2錠経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

200mg錠：通常、成人1回1錠(チアプロフェン酸として200mg)、1日3回経口投与する。

頓用の場合は1回1錠経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)の解熱・鎮痛の場合

通常、成人にはチアプロフェン酸として1回量200mgを頓用する。なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、原則として1日2回までとし、1日最大600mgを限度とする。また、空腹時の投与は避けさせることが望ましい。

(使用上の注意)*

1. 一般的注意

- (1) 消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。
- (2) 慢性疾患(慢性関節リウマチ、変形性関節症等)に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。

1) 長期投与する場合には定期的に臨床検査(尿検査、血液検査及び肝機能検査等)を行うこと。また、異常が認められた場合には減量、休薬等の適切な措置を講ずること。

2) 薬物療法以外の療法も考慮すること。

- (3) 急性疾患に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。

1) 急性炎症、疼痛、発熱の程度を考慮し投与すること。

2) 原則として同一の薬剤の長期投与を避けること。

3) 原因療法があればこれを行うこと。

- (4) 患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。過度の体温下降、虚脱、四肢冷却等があらわれることがあるので、特に高齢者、小児及び高齢者又は消耗性疾患の患者においては、投与後の患者の状態に十分注意すること。

- (5) 感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染による炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤を併用し、観察を十分に行い慎重に投与すること。

- (6) 他の消炎鎮痛剤との併用は避けることが望ましい。

- (7) 高齢者及び小児には副作用の発現に特に注意し、必要最小限の使用にとどめるなど慎重に投与すること。

*2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

- (1) 消化性潰瘍のある患者
- (2) 重篤な血液の異常のある患者
- (3) 重篤な肝障害のある患者
- (4) 重篤な腎障害のある患者
- (5) 重篤な心機能不全のある患者
- (6) 本剤の成分に過敏症の既往歴のある患者
- (7) アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者
- (8) 妊娠末期の婦人(「妊婦・授乳婦への投与」の項参照)

*3. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 消化性潰瘍の既往歴のある患者
- (2) 血液の異常又はその既往歴のある患者
- (3) 出血傾向のある患者
- (4) 肝障害又はその既往歴のある患者
- (5) 腎障害又はその既往歴のある患者
- (6) 心機能障害のある患者
- (7) 過敏症の既往歴のある患者
- (8) 気管支喘息のある患者
- (9) 高齢者(「高齢者への投与」の項参照)

*4. 相互作用

併用に注意すること

- (1) クマリン系抗凝固剤(ワルファリン等)、カリウム製剤
- (2) チアジド系利尿剤
- (3) 炭酸リチウム
- (4) ニューキノロン系抗菌剤(オフロキサシン等)

*5. 副作用(まれに：0.1%未満、ときに：0.1～5%未満、副詞なし：5%以上又は頻度不明)

(1) 重大な副作用

1) 消化性潰瘍、胃腸出血 まれに消化性潰瘍・胃腸出血等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。

2) ショック まれにショックがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、胸内苦悶、呼吸困難、冷汗、血圧低下、頻脈等があらわれた場合には、投与を中止し適切な処置を行うこと。

3) 喘息発作 まれに喘息発作があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

4) 白血球減少、血小板機能低下(出血時間の延長) まれに白血球減少、血小板機能低下(出血時間の延長)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

1) 消化器 ときに嘔吐、胃部不快感、腹痛、食欲不振、胃重感、胸やけ、下痢、口内炎、また、まれに胃炎、腹部膨満感、便秘、舌のあれ、口角炎、口渇、唾液分泌亢進等があらわれることがある。

2) 過敏症 ときに発疹、また、まれに光線過敏症、紅斑、痒疹等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

3) 精神神経系 まれに眠気、めまい、ふらつき感、頭痛等があらわれることがある。

4) 循環器 まれに頻脈があらわれることがある。

5) 血液 ときに貧血、白血球増多があらわれることがある。

*6) 肝臓 まれに黄疸、また、ときにGOT、GPT、AI-P上昇等があらわれることがあるので、観察を十分に行い異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

7) 腎臓 ときに浮腫、BUN上昇、また、まれに高カリウム血症、蛋白尿があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

*8) 泌尿器 外国において、本剤の投与により泌尿器症状(膀胱痛、排尿困難、頻尿)、血尿、膀胱炎があらわれたとの報告がある。泌尿器症状を認めてからも本剤の投与を数ヶ月間継続した場合に膀胱炎症状が重症化した例も観察されているので、泌尿器症状を認めた場合には投与を中止すること。

9) 耳 まれに耳鳴り、耳づまり感があらわれることがある。

10) その他 まれに脱力感、倦怠感、ほてり、胸痛、味覚異常、舌のしびれ、尿糖があらわれることがある。

6. 高齢者への投与

高齢者では、副作用があらわれやすいので、少量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること(「一般的注意」の項参照)。

7. 妊婦・授乳婦への投与

(1) 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

(2) 妊娠末期のラットに投与した実験で、分娩遅延及び胎児の動脈管収縮が報告されているので、妊娠末期の婦人には投与しないこと。

(3) ラットで乳汁への移行が報告されているので、授乳婦への投与は避け、やむを得ず投与する場合は授乳を避けさせること。

8. 小児への投与

小児に対する安全性は確立していない(使用経験が少なくない)。

●ご使用に際しては添付文書をご参照ください。

※ 1995年7月改訂

資料請求先は
エーザイまたは森下セル



発売元
エーザイ

〒112-88 東京都文京区小石川4-6-10



提携先
森下セル

〒541 大阪市中央区道修町3-3-8



製造元
日本セル

〒103 東京都中央区日本橋室町4-1-21

E-129709